

第7回 新型コロナウイルス（新型コロナウイルス/COVID-19）調査

レポート作成：2021/1
調査実施：2020/12

	Page		Page
当資料の利用条件	3	院内感染対策について	34
調査概要	4	来院患者数の状況	35
当資料をご覧になる際の注意点や用語説明など	5	「診療・検査医療機関」としての申請状況	36
回答者属性	6-9	新型コロナウイルス患者診察にともなう追加業務	37
昨年同時期と比べた来院患者数の変化	10	新型コロナウイルスに関する情報の入手	38
新型コロナウイルスの相談や問い合わせの変化	11	受診相談窓口は機能しているか	39
新型コロナウイルス感染症の疑い患者の診察	12	新型コロナウイルスの収束時期予測	40
新型コロナウイルス感染症の疑い患者診察人数	13	感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと	41-42
疑い患者の来院事前連絡の有無	14	医師としての考えや立場の変化	43
疑い患者の診察を断った経験	15	先生の収入面の変化	44
新型コロナウイルスの検査状況	16-17	収入の増減の割合	45
PCR検査にかかる日数	18-19	お正月の予定	46
実施可能な検査	20-21		
医療機関で実際に検査や治療を行っているか	22		
先生自身が実際に診察・治療を行っているか	23		
増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患	24-25		
医療スタッフは足りているか	26		
医療スタッフの疲弊度	27		
医療現場で困っていること	28-30		
必要な医療資材の充足状況	31		
不足している医療資材	32-33		

株式会社eヘルスケアは、「人々が健康を維持・増進し、患者さんが安心してヘルスケアを受けられることを願い、幸せで豊かな人生を送れる社会づくりに貢献します。」のスローガンに則り、当調査は社会貢献活動の一環として実施しております。

調査結果のご利用について

「新型コロナウイルス感染症についての緊急アンケート調査レポート」(以下、当調査レポート)は、教育研究上の目的を含め、公序良俗に反しない限り以下の条件において無料でご利用いただくことができます。

当調査レポートの著作権は、株式会社eヘルスケアに帰属します。

・ご利用には出典の記載が必要です。

例)「第7回 新型コロナウイルス感染症についての緊急アンケート調査レポート(2020'12)」株式会社eヘルスケア
WEB媒体で掲載される際は併せて弊社サイトへのリンクをお願いします。

(リンク先URL: <https://www.ehealthcare.jp/>)

- ・出版物やその他の印刷物などへのご利用の場合、発行の際に弊社宛に一部お送りください。
- ・当調査レポートは細心の注意を払って作成しておりますが、内容の正確性については一切保証いたしません。
- ・ご利用に関して生じたあらゆる損害等についても、理由の如何に関わらず、当社は一切責任を負いません。
- ・ご利用に関して利用者が当社に損害を与えた場合は、利用者は当社にその損害を賠償する責任を負います。
- ・当社はご利用開始後であっても利用者に対して提供を撤回することができます。

当調査レポートの追加データの提供や共同研究などのご依頼も受け付けております。

基本的に、費用等のご負担は必要ありませんので、お気軽にご意見、ご希望をお寄せください。

【お問い合わせ窓口】

株式会社eヘルスケア

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-8 第2紀尾井町ビル1F

Email: info@ehealthcare.co.jp

問い合わせ先:「第7回 新型コロナウイルス(新型肺炎/COVID-19)調査」担当窓口 森田真一

目的

2020年3月以降、7回にわたって実施しているトラッキング調査の内、12月調査を4月、6月、8月、10月に行った調査結果と比較するかたちで、診療現場にいる医師の実感を掴み、医療機関の対応状況、医師の意識の変化を見る。

調査方法と対象者

インターネットアンケート 3月調査回答者 816件に発信

回答完了数

541回答（66.3% 対発信数）

調査期間

	調査名	調査期間
Wave 1	3月調査	3月17日（火）10:00 ～ 3月23日（月）正午
Wave 2*	4月調査	4月16日（木）10:00 ～ 4月21日（火）9:00
Wave 3	5月調査	5月20日（水）10:00 ～ 5月25日（月）9:00
Wave 4*	6月調査	6月23日（火）10:00 ～ 6月29日（月）9:00
Wave 5*	8月調査	8月25日（火）10:00 ～ 8月31日（月）9:00
Wave 6*	10月調査	10月27日（火）11:00 ～ 11月2日（月）9:00
▶ Wave 7	12月調査	12月24日（火）10:00 ～ 12月30日（水）9:00

*今調査の比較対象

当資料内で使用している用語や、閲覧する際に注意を要する点などについて説明します。

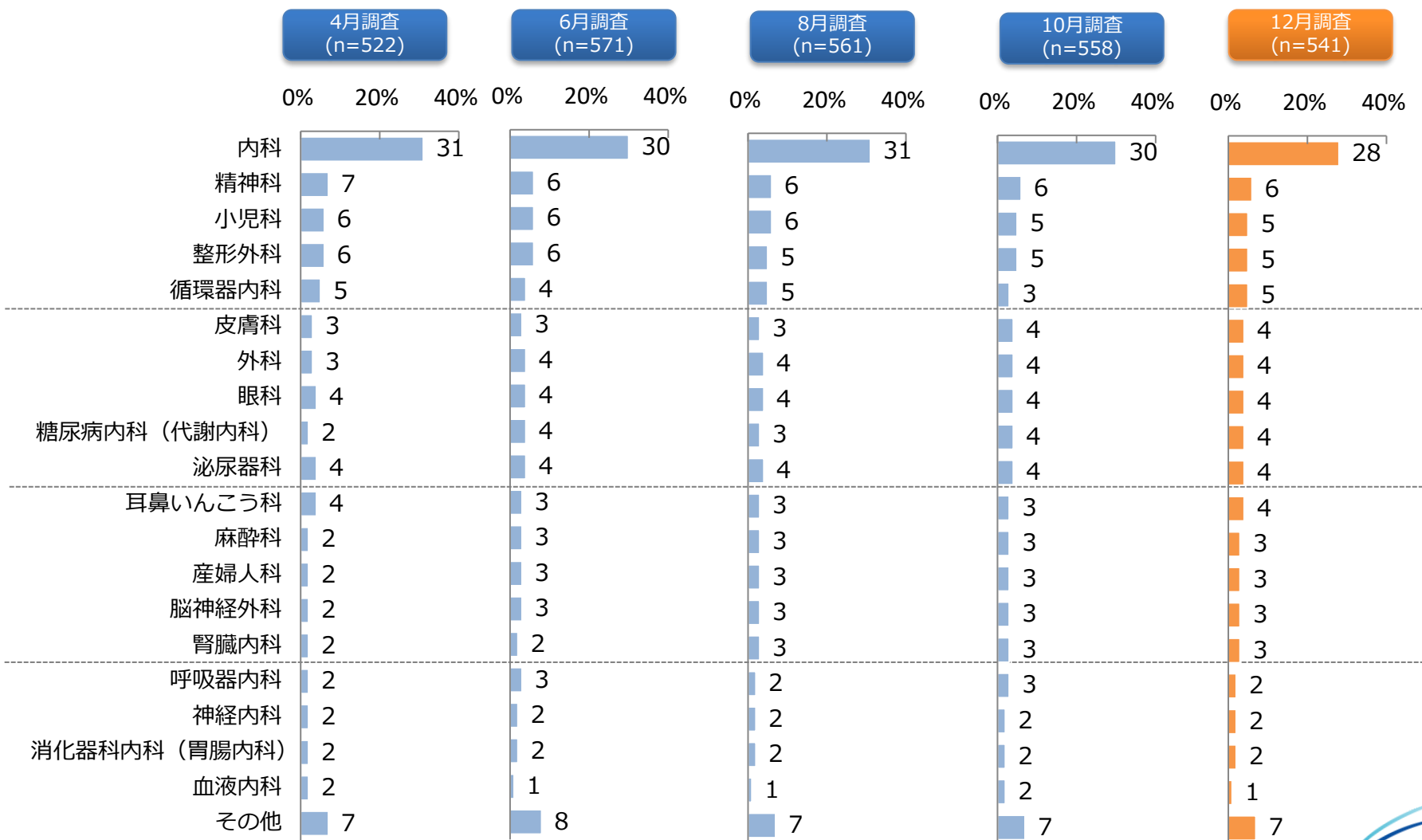
- %表示について
⇒グラフなどで利用されている%表示の数値は、小数点以下を四捨五入しており、合計で100%にならない場合があります。
- 医師の主診療科目や勤務医療機関の所在地域について
⇒2020年3月調査の分析では2018年の属性調査時の取得情報を使用しました。
2020年4月調査内で属性を再確認したことにより変更があった医師がいます。
- 比較のために記載する調査とその対象となる期間について
本調査レポートでは、今回の調査結果に加えて、弊社が過去に実施した新型コロナウイルスに関する調査のうち、4月（第2回）、6月（第4回）、8月（第5回）、10月（第6回）の調査結果を適宜記載します。
⇒質問ごとに、どの調査で設問がされたかを各頁下部に記載しています。

	回答期間	調査の対象となる期間	アンケート内での聞き方
4月調査	2020/4/17～21	3月調査実施時(3/17～23)～調査回答時点(4/17～21)	前回調査から現在まで約1か月
6月調査	2020/6/23～29	5月調査実施時(5/20～25)～調査回答時点(6/23～29)	前回調査から現在まで約1か月
8月調査	2020/8/25～31	7月中旬～調査回答時点(8/25～31)までの約1か月	7月中旬から現在までの約1か月
10月調査	2020/10/27～11/2	9月下旬～調査回答時点(10/27～11/2)までの約1か月	9月下旬から現在までの約1か月
12月調査	2020/12/24～30	11月下旬～調査開始時点(12/24～30)までの約1か月	11月下旬から現在までの約1か月

- SA、MA、OAとは？
SA: 単一選択回答(シングルアンサーの略)
MA: 複数選択回答(マルチアンサーの略)
OA: 選択肢を設けない自由回答(オープンアンサーの略)
- GP / HPとは？
GP: 診療所・小規模病院(100床未満)
HP: 中規模以上の病院(100床以上)
- n数(回答者数)が100に満たない調査結果は、参考値としてご覧ください。

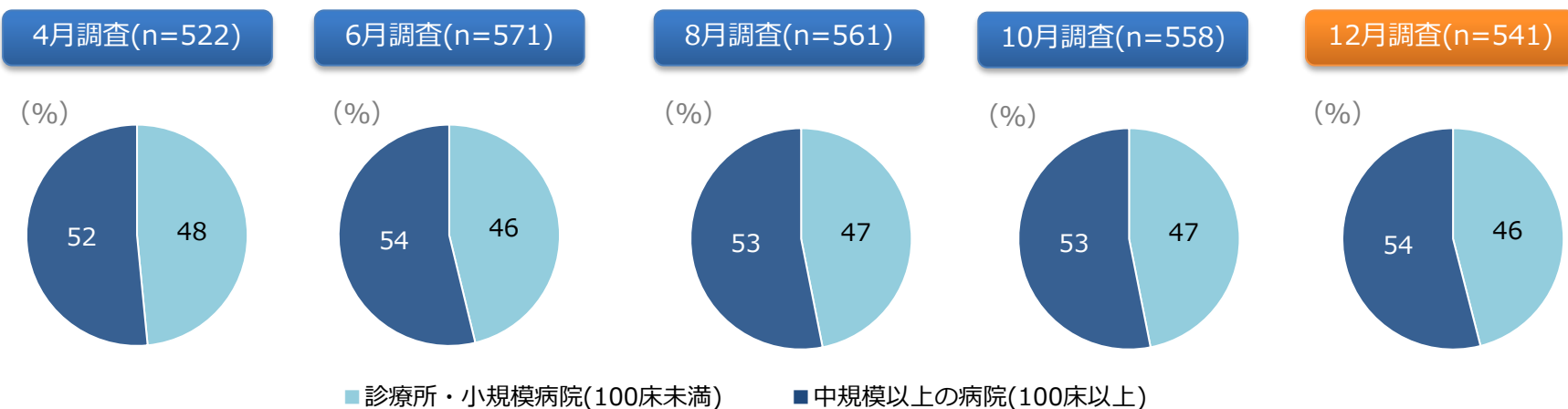
- 回答医師の主診療科目は、前回までと同様、内科が3割近くを占め、最多。精神科、小児科、整形外科、循環器内科が5%以上で続いている。

主診療科目

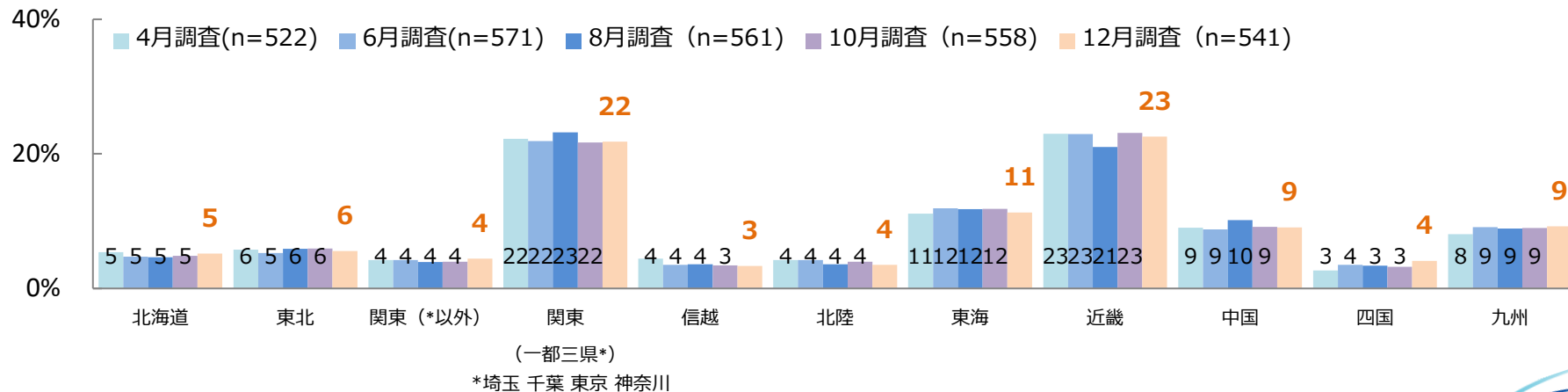


- 勤務先医療機関は、「診療所・小規模病院」と「中規模以上の病院」の割合も前回までと同様の傾向で、「中規模以上の病院」が若干多め。
- 回答医師の地域は、「関東（一都三県）」と「近畿」とがそれぞれ2割以上を占め、3番目に多い東海を合わせた3大都市圏で過半数となっている。

勤務先医療機関の規模

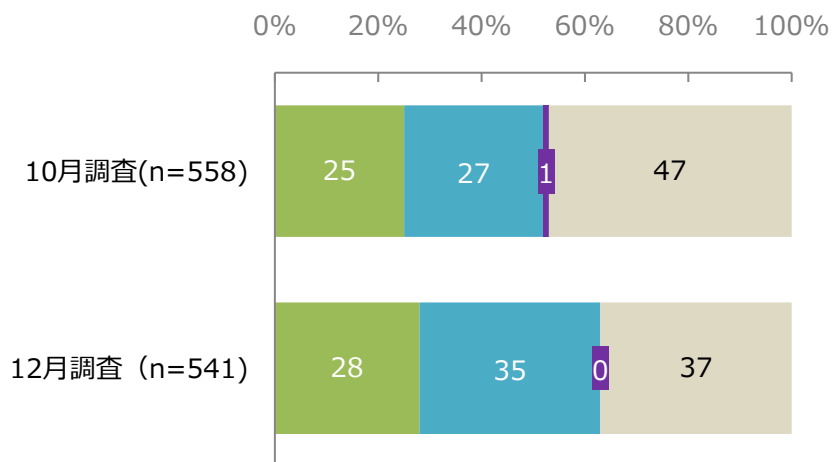


地域



- 勤務先医療機関で新型コロナウイルス感染症の「検査、治療ともに行っている」は28%に微増、「検査のみ」も35%に増加している。
- 今回の調査では、さらに医療機関で治療を行っているとした回答者に、回答医師自身が、新型コロナウイルス感染症の診察・治療を行っているかも尋ねたところ、3割超が行っていた。

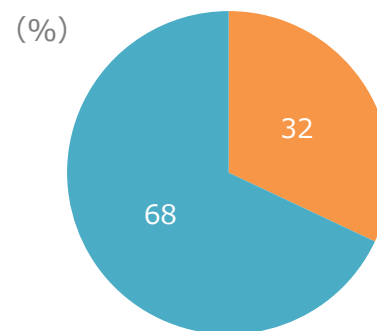
医療機関で検査や治療を行っているか



- 検査、治療ともに行っている
- 検査のみ行っている
- 治療のみ行っている
- どちらも行っていない

先生自身が診察・治療を行っているか

Base: 医療機関で治療を行っている回答者(n=153)



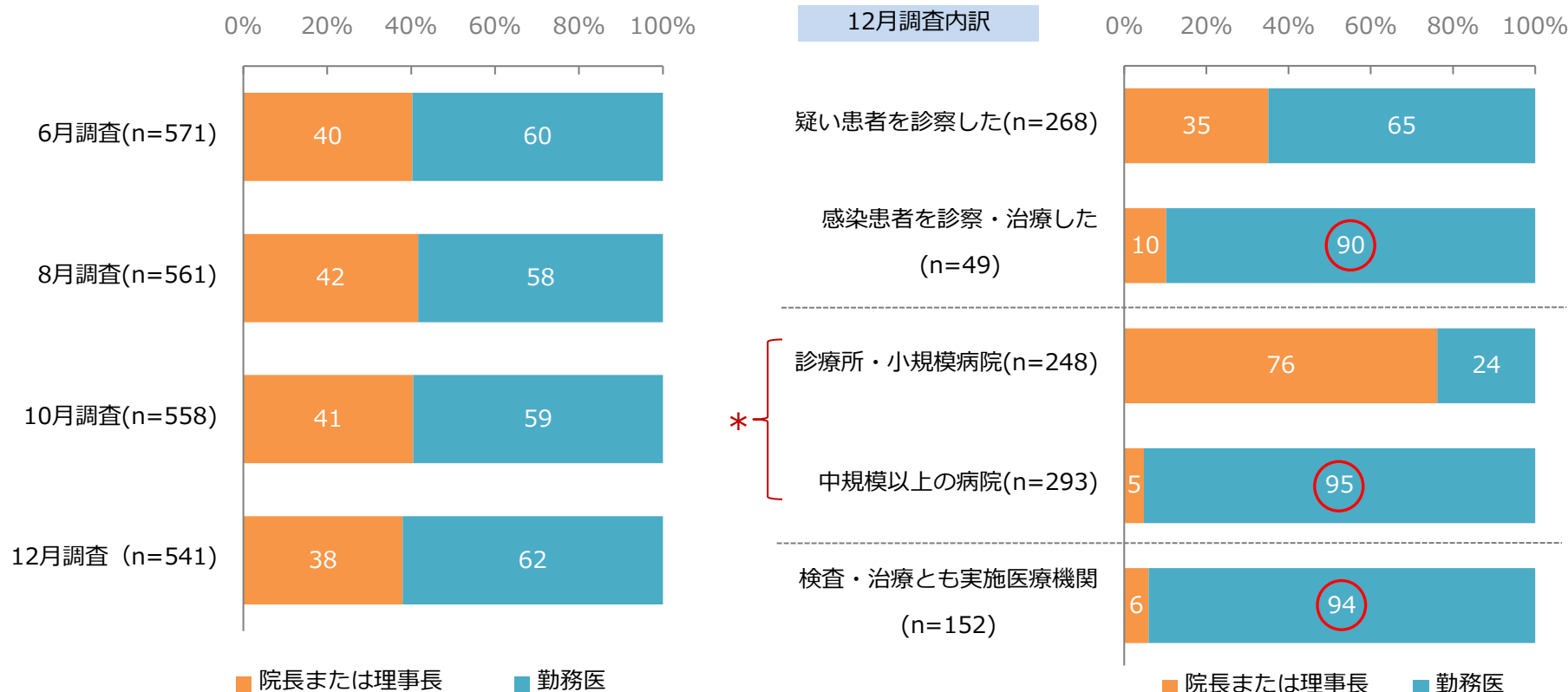
- はい (ご自身が診察・治療を行っている)
- いいえ (ご自身が診察・治療を行っていない)

Q12. お勤めの医療機関では、新型コロナウイルス感染症の検査や患者の治療を、実際に行っていますか。(SA, -/-/-/-/-/10月調査/12月調査)

Q13. 先生ご自身は、新型コロナウイルスへの感染が確認された患者の診察・治療を、実際に行っていますか。(SA, -/-/-/-/-/12月調査)

- 回答者の職責に大きな変化はなく、「院長または理事長」が4割前後、「勤務医」が6割前後と、勤務医がやや多い。
- 12月調査の内訳を見ると、感染患者を診察・治療した回答者や検査・治療ともに実施している医療機関では大多数が「勤務医」で、9割を超えている。

医師の職責

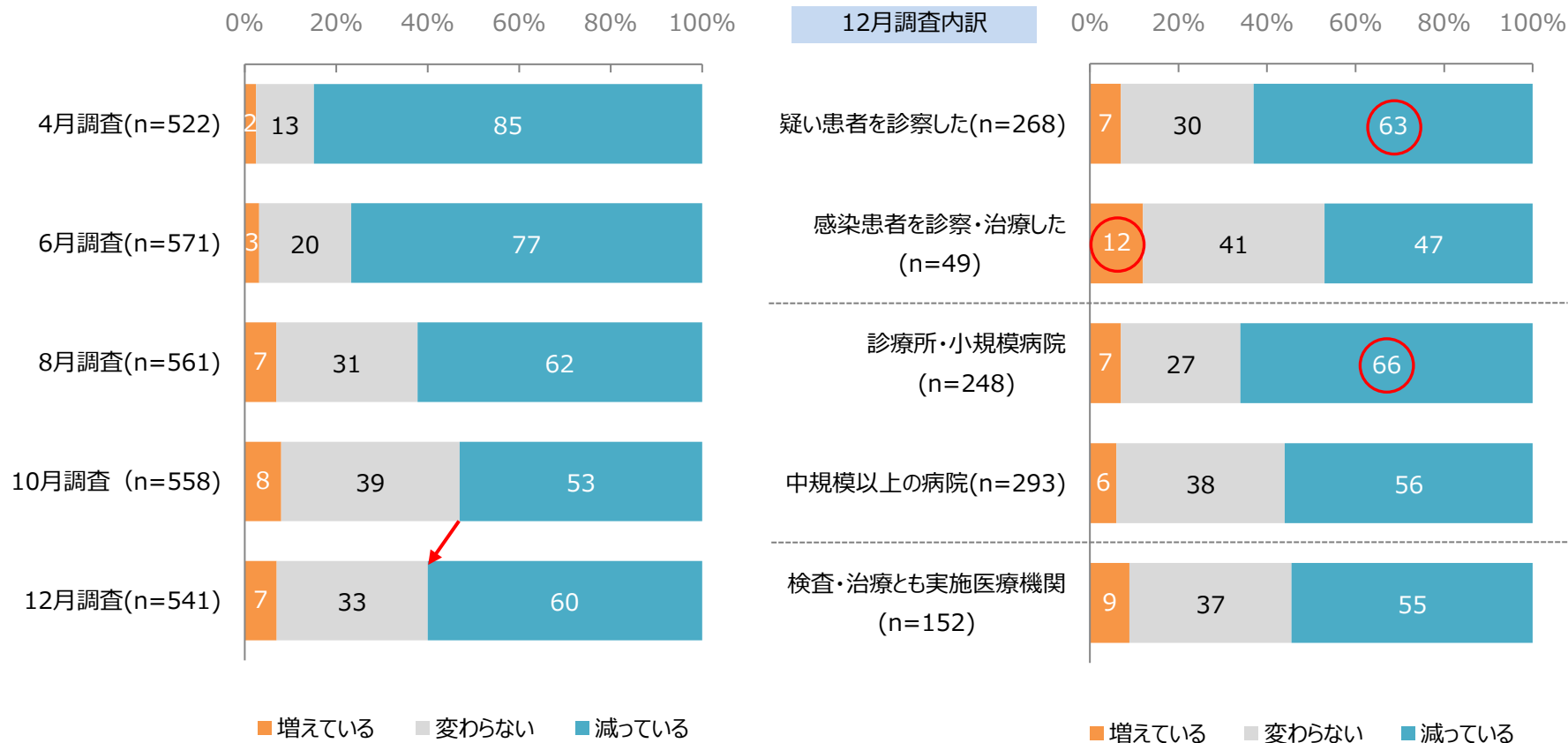


* 診療所・小規模病院：100床未満の医療機関、中規模以上の病院：100床以上の医療機関（以下同様）

Q1. 先生が主にお勤めの医療機関での、先生のお立場をお選びください (SA, -/-/5月/6月/8月/10月調査/12月調査)

昨年同時期と比べた来院患者数の変化

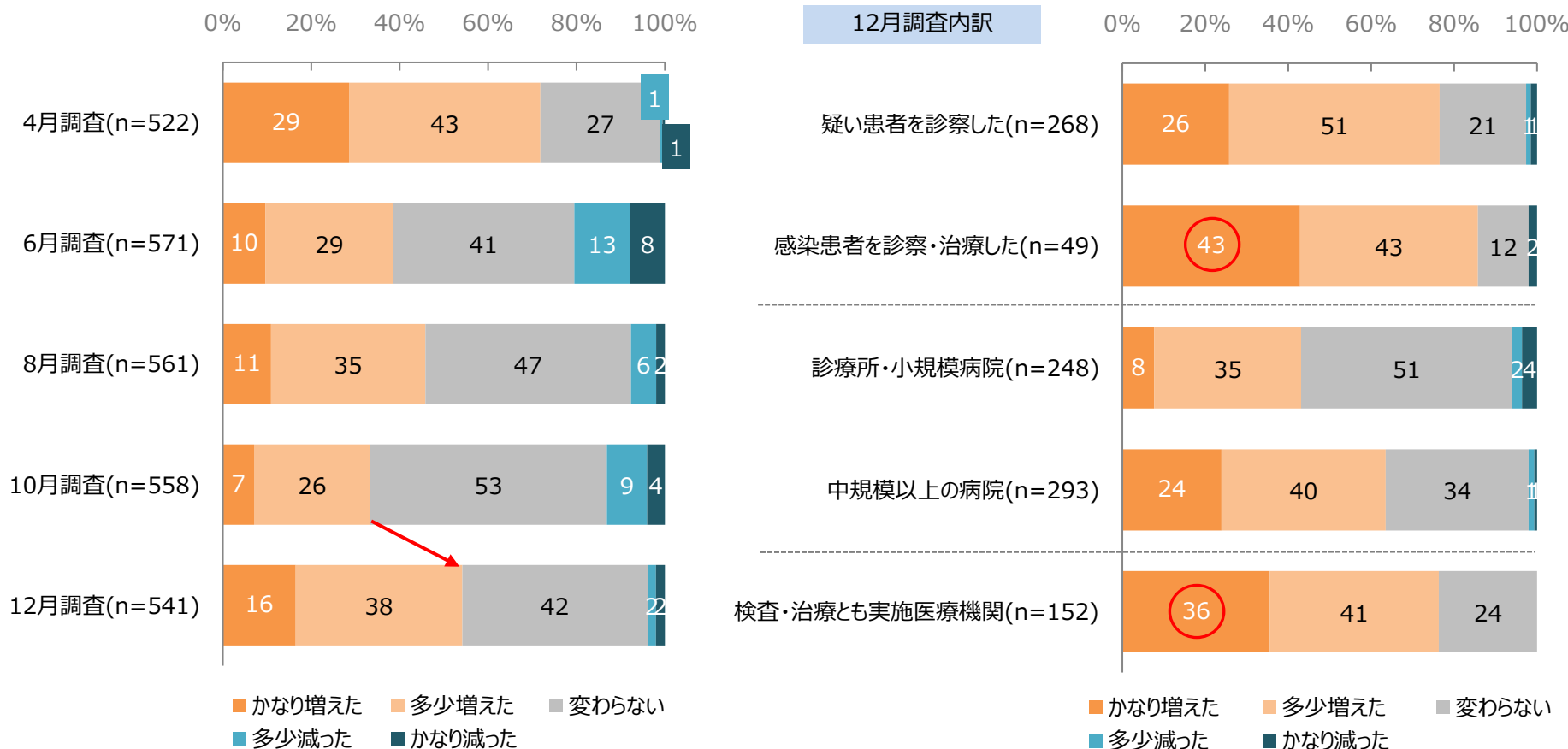
- 昨年同時期との来院患者数比較では、4月調査時には85%に達していた「減っている」が、以降10月まで漸次減少傾向にあったが、12月調査では転じて7ポイント増加し、6割を占めた。第三波が深刻化し、厳しい医院経営が続いていることが推察される。
- 患者数が「減っている」には、院長または理事長が多めに含まれており、新型コロナウイルス感染症の疑い患者を診察した医師、診療所・小規模病院で6割超に上る。
- 「増えている」割合は、感染患者を診察・治療した医師で最も高く、唯一1割を超えた。



Q3. 昨年同時期に比べ、この期間の医療機関全体の来院患者数に変化は見られますか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月調査)

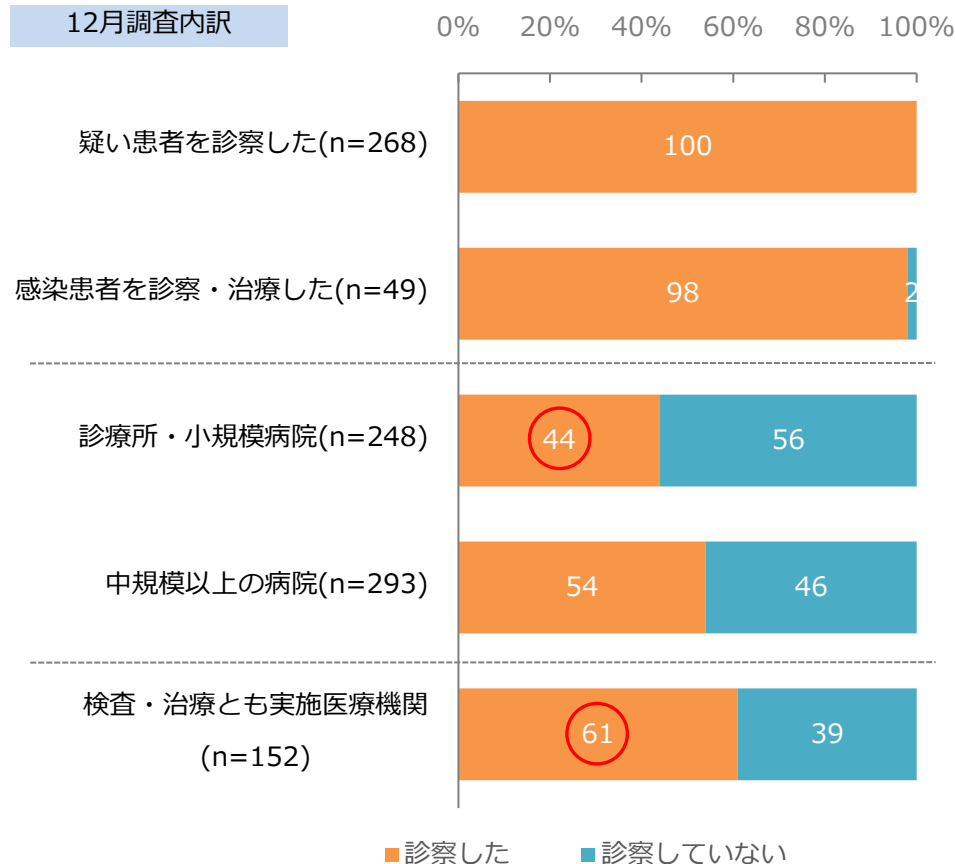
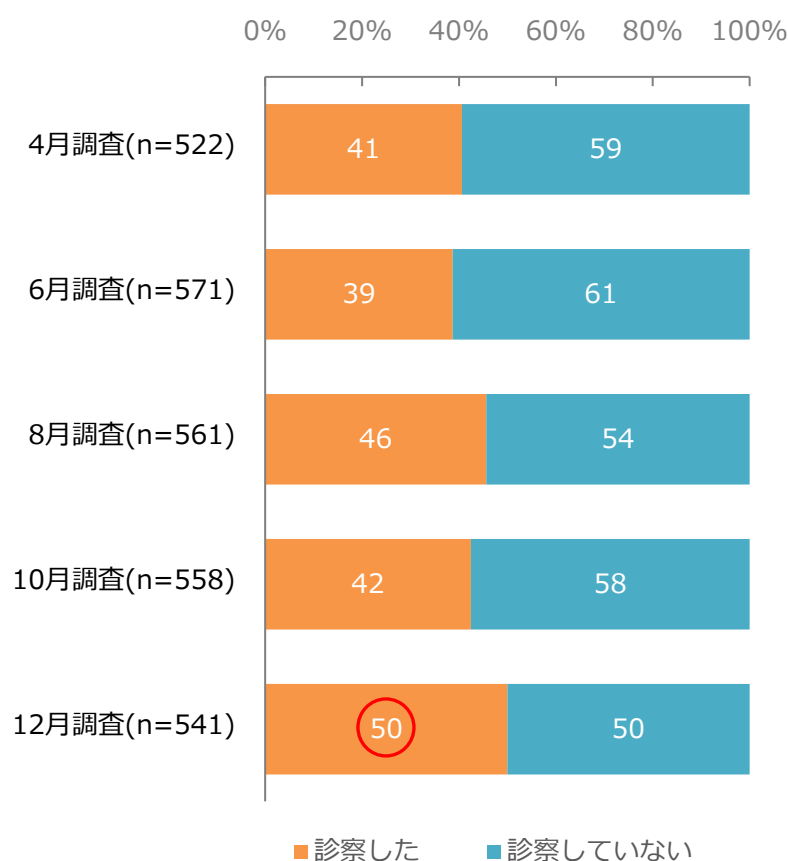
- 12月にかけて、問合せが「増えた」(「かなり」、「多少」の計)が前回10月時点よりも10ポイント以上増え、5割超となった。8月、10月調査時には、いったん問合せ数が落ち着いた様子だったが、第三波の影響で再び増加に転じたものと思われる。

なかでも、感染患者を診察・治療した医師の4割超、検査・治療とも実施医療機関の36%が、「かなり増えた」と回答している。



Q4. 先生のお勤めの医療機関では、この期間中、患者さんからの新型コロナウイルスについての相談や問い合わせは変化しましたか
(SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月調査/12月調査)

- 直近1ヶ月で疑い患者を「診察した」医師は、これまでの調査で最も多く、半数に上る。第三波や、かかりつけ医が発熱患者の診察・検査を担うことになった影響も考えられる。
- 「診察した」医師が、診療所・小規模病院でも44%おり、「検査・治療ともに実施(医療機関)」では6割超を占めた。



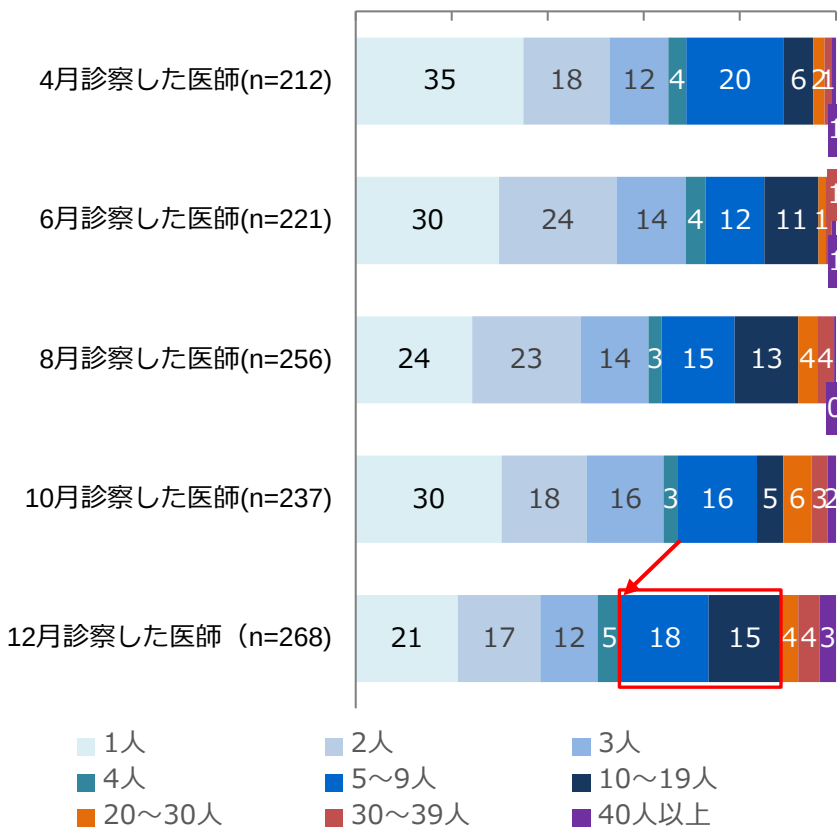
Q5. 先生は、この期間中、新型コロナウイルスに感染の疑いがある患者さんを実際に診察されましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

新型コロナウイルス感染症の疑い患者診察人数

- 11月下旬以降の1ヵ月間に診察した疑い患者数は、「5～9人」「10～19人」が10月調査時よりも増加し、合わせて3割超となった。
- 感染患者を診察・治療した医師の診察人数内訳を見てみると、「10人以上」が半数を占める。
- 医療機関種別では、診療所・小規模病院でも、10月調査に比べ「10～19人」が増加し(4%→15%)、「10人以上」が4分の1を占めた。特定の医療機関種別だけに患者が集中しているわけではないようだ。

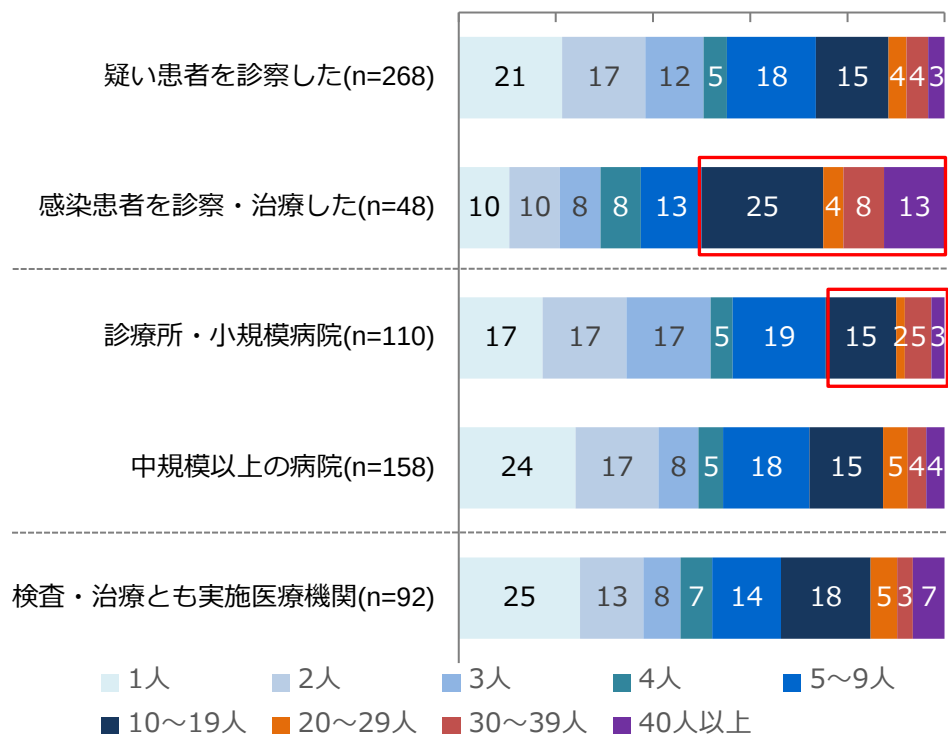
Base:疑い患者を「診察した」回答者

0% 20% 40% 60% 80% 100%



12月調査内訳

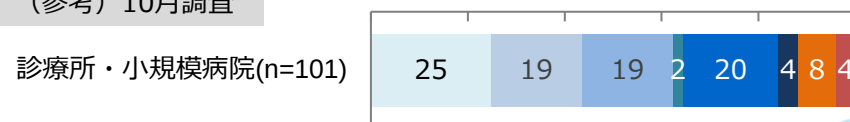
0% 20% 40% 60% 80% 100%



1人 2人 3人 4人 5～9人 10～19人 20～29人 30～39人 40人以上

(参考) 10月調査

0% 20% 40% 60% 80% 100%

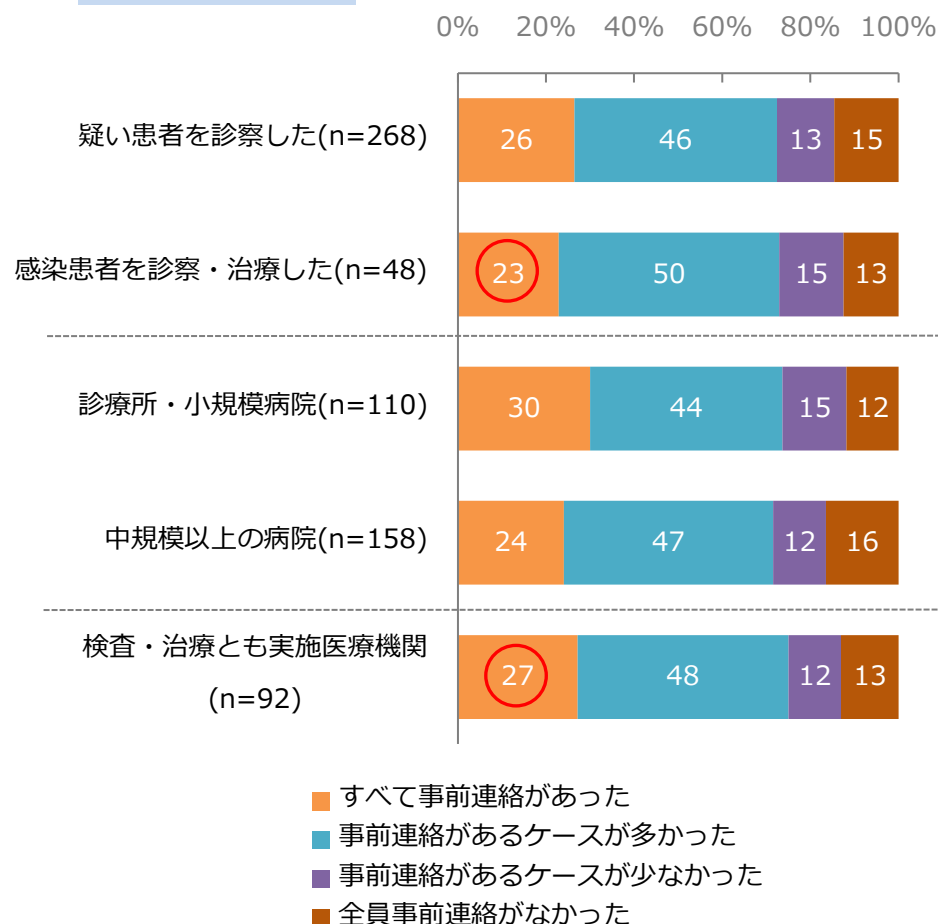
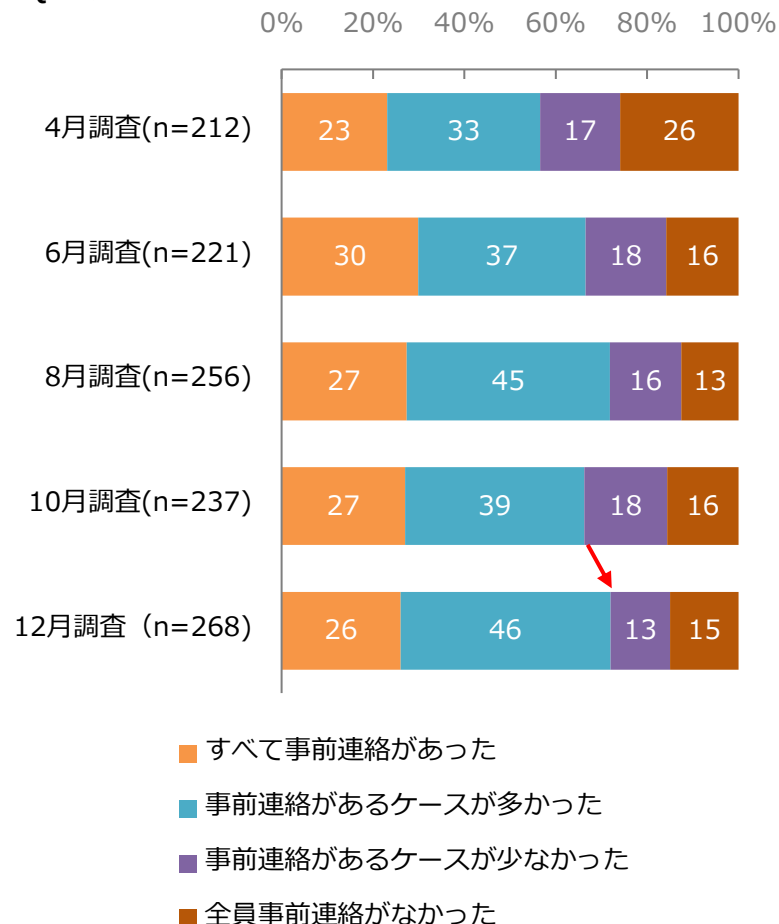


Q5. 先生は、この期間中、新型コロナウイルスに感染の疑いがある患者さんを実際に診察されましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 疑い患者の来院事前連絡は、「事前連絡があるケースが多かった」が12月調査にかけ7ポイント増加し、「すべて」とあわせると7割超に達した。一方で、「事前連絡があるケースが少なかった」「全員事前連絡がなかった」の合算がまだ2割弱含まれている。
- 感染患者を診察・治療した医師や、検査・治療とも実施医療機関でも、「すべて事前連絡があった」は3割に満たない。

Base: Q5 疑い患者を「診察した」回答者

12月調査内訳

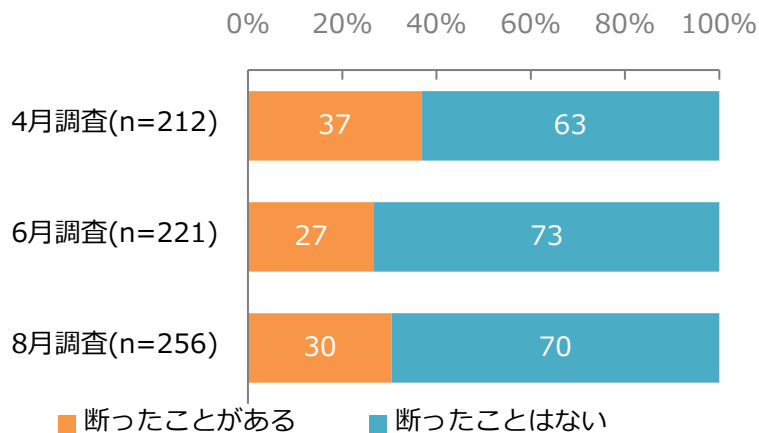


Q6. 疑いのある患者さんは、事前に医療機関に電話やメールなどで連絡したうえで来院しましたか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

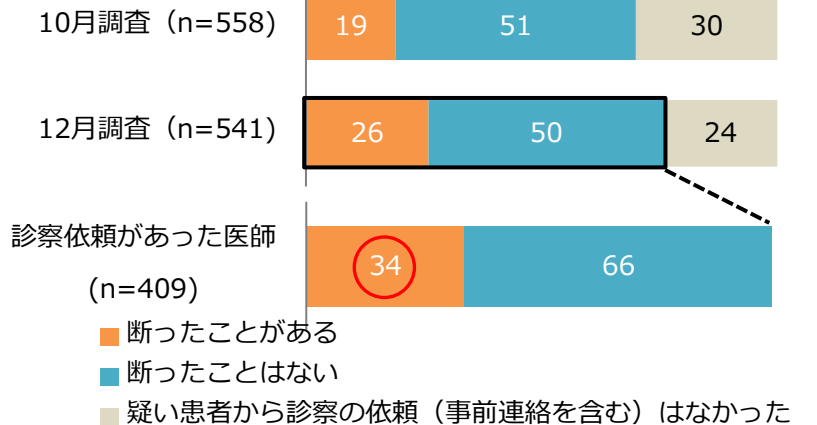
疑い患者の診察を断った経験

- Baseの定義が異なるので単純に比較はできないが、診察依頼があった医師に限ると「断ったことがある」とした医師は3割超で、8月調査と同水準。
- 診療機会が多いと思われる、検査・治療とも実施医療機関の27%、感染患者を診察・治療した医師の3割が、「断ったことがある」と回答。医療機関種別では中規模以上の病院で「断ったことがある」が36%と、やや高め。

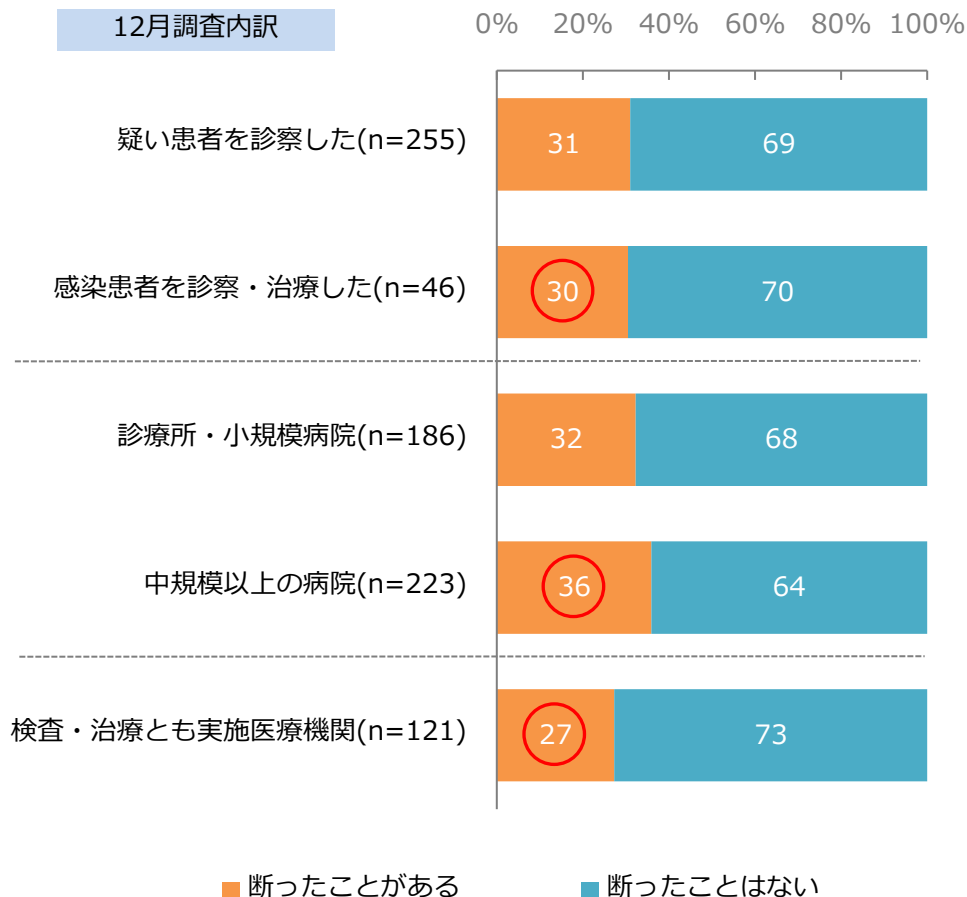
Base:Q6 疑い患者を「診察した」回答者



Base:Q6 全対象者



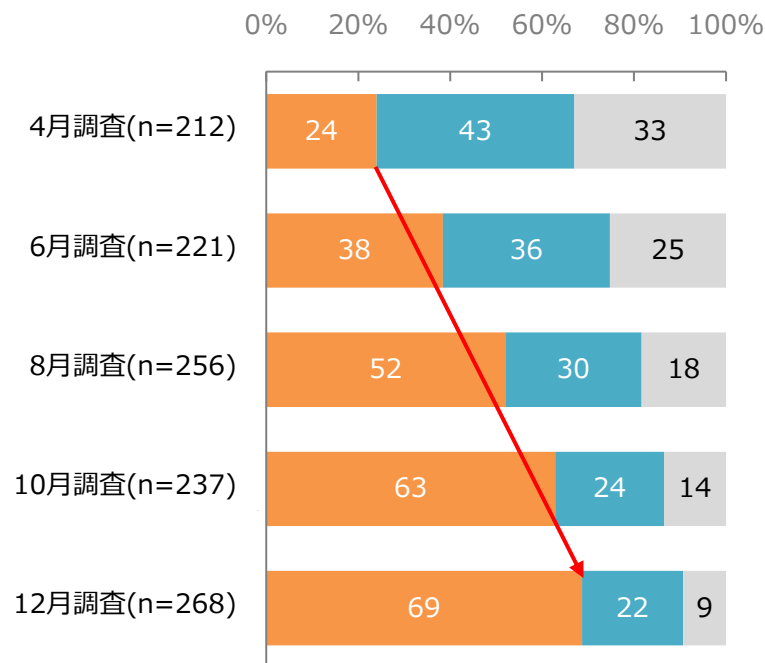
Base:Q6 診察依頼があった医師



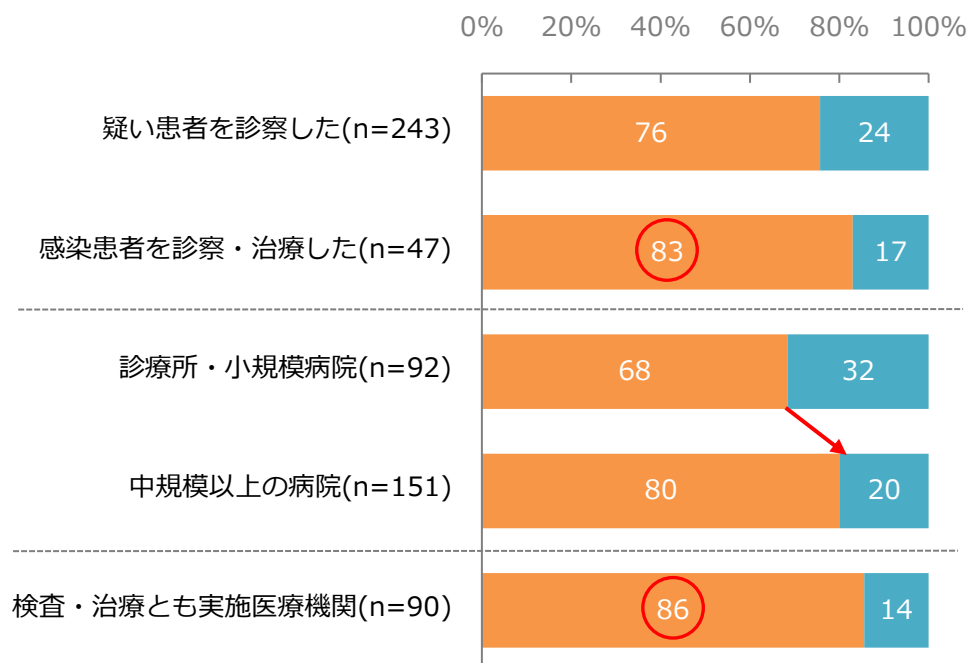
Q7. 疑いのある患者さんの診察を断ったケースがありますか（SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査）

- 医師が「検査を必要と判断して、全て検査を行った」割合は、4月以降、漸増傾向にあり、10月調査より6ポイント増え、約7割に達した。
- 検査・治療とも実施医療機関と感染患者を診察・治療した医師の中では、8割超が「全て検査を行った」と回答した。「中規模以上の病院」は「診療所・小規模病院」に比べ12ポイント高く、8割が「全て行った」と回答。検査の機会が、浸透している様子。

Base: Q6 疑い患者を「診察した」回答者



Base: 「医師が検査を必要とした」回答者



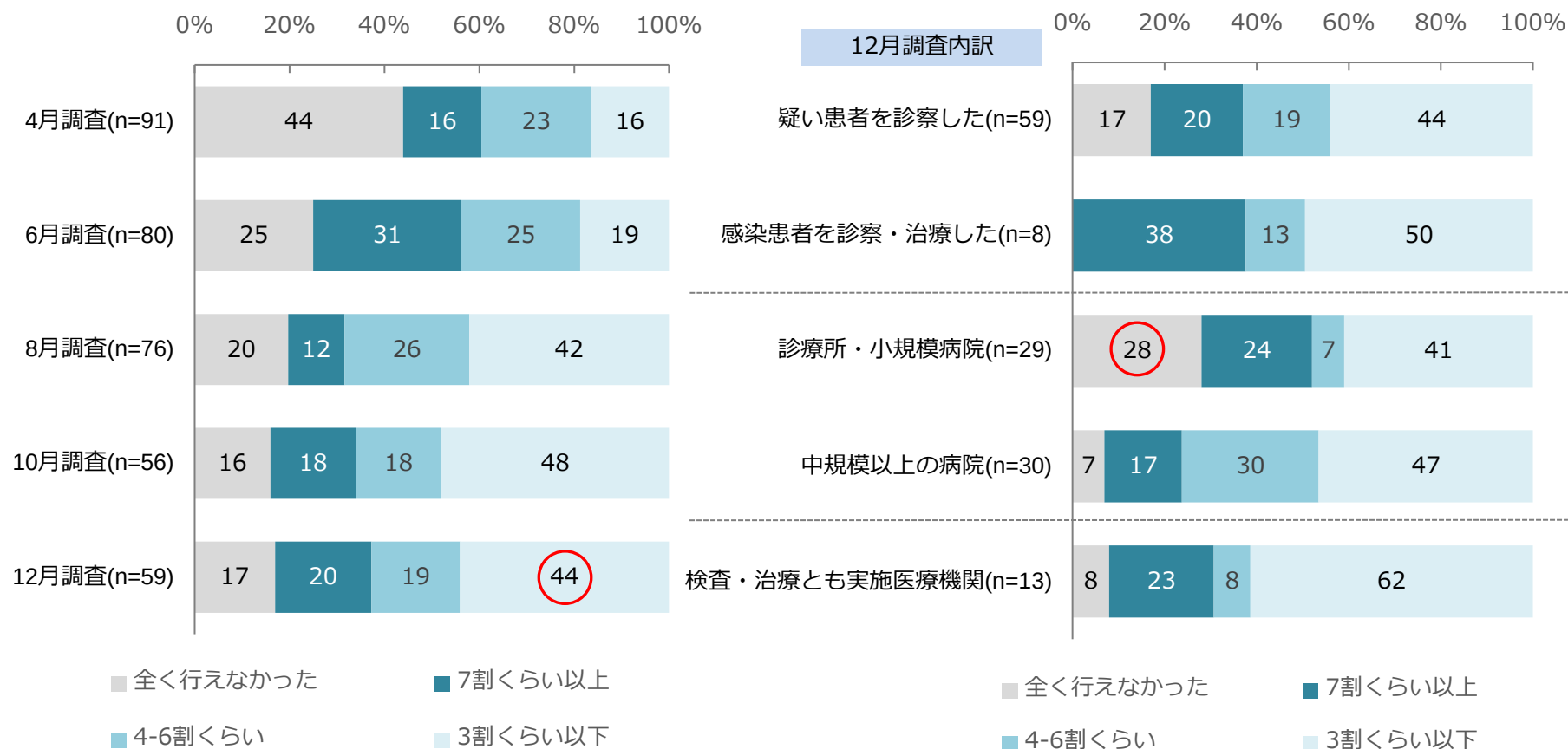
- 医師が検査を必要と判断をして、全て検査を行った
- 医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった
- 検査の必要性はなかった

- 医師が検査を必要と判断をして、全て検査を実施できた
- 医師が検査を必要と判断したが、検査を実施できない場合があった

Q8. この期間中、疑いのある患者さんに対し、新型コロナウイルスの検査を行われましたか。自院、外部検査機関などを問わず、実施の可否をお答えください。
(SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 検査を行えない場合があった医師にその割合を尋ねた。10月調査に引き続き「3割くらい以下」が4割超と多く、「検査を全く行えなかった」割合も2割弱の傾向が続いている。
- 医療機関種別はベースが少ないため参考値に留まるが、検査を行えなかった割合は、診療所・小規模病院＞中規模以上の病院。

Base:「医師が検査を必要と判断したが、検査は行えない場合があった」回答者

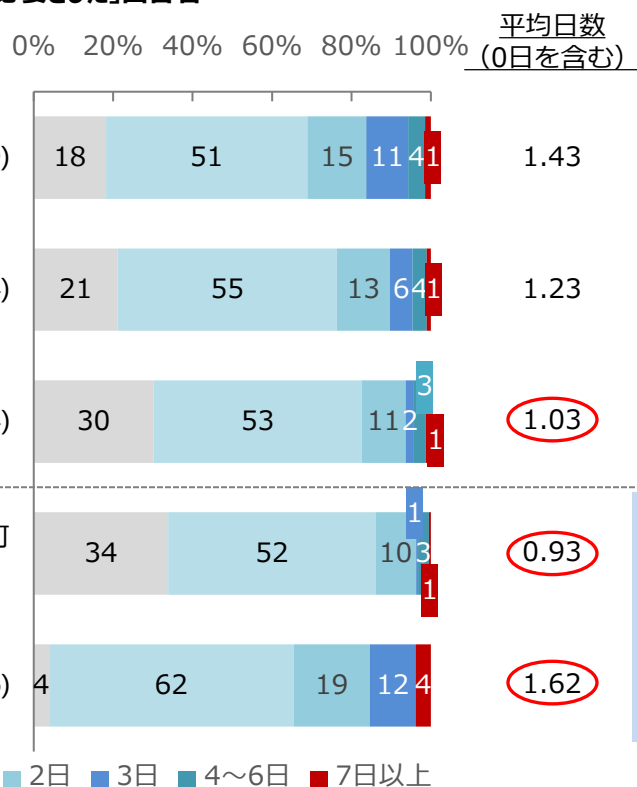


Q9. 検査が必要だった患者さんの検査が行えなかった割合を教えてください (SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 検査にかかる日数を尋ねたところ、「依頼してから検査実施まで」は「1日」が約半数を占め、0日を含む平均日数は1.03日。「実施してから結果が出るまで」の日数も、「1日」が半数超で最も多く、次いで「2日」が29%で平均日数は1.38日。いずれも10月時点よりやや短く、8月以降短縮傾向が続いている。
- 可能な検査の回答別では、「自施設でPCR検査可」は、検査実施までが平均0.93日、検査後結果が出るまでが平均1.32日で、合計2日強。「他機関に要請する」とした回答者では、検査実施までが1.62日、検査後結果が出るまでが1.64日、合計3.2日程度かかっている。

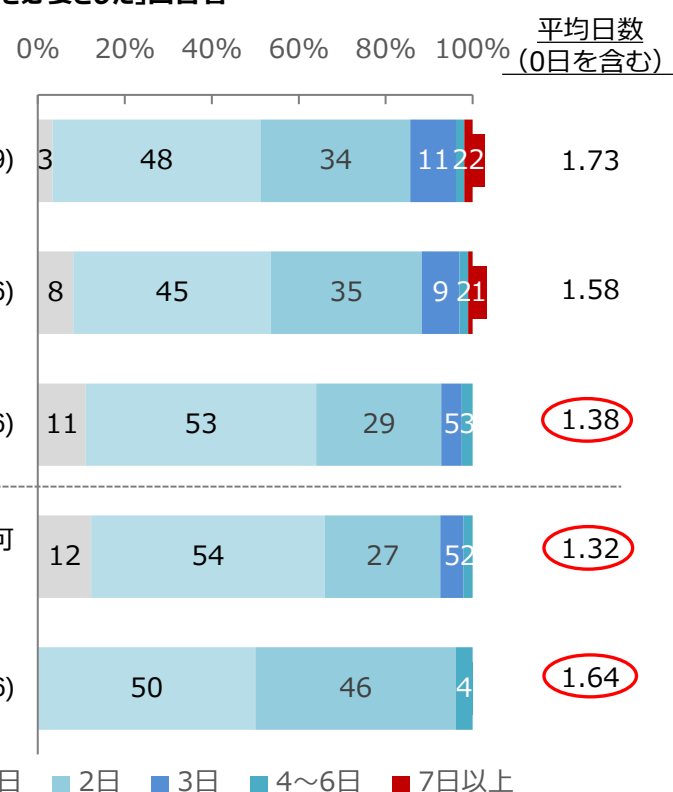
「依頼してから検査実施まで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者



「実施してから結果が出るまで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者



実施可能な検査別

実施可能な検査別

自施設でPCR検査可
(n=186)

自施設でPCR検査可
(n=188)

他機関に要請(n=26)

他機関に要請(n=26)

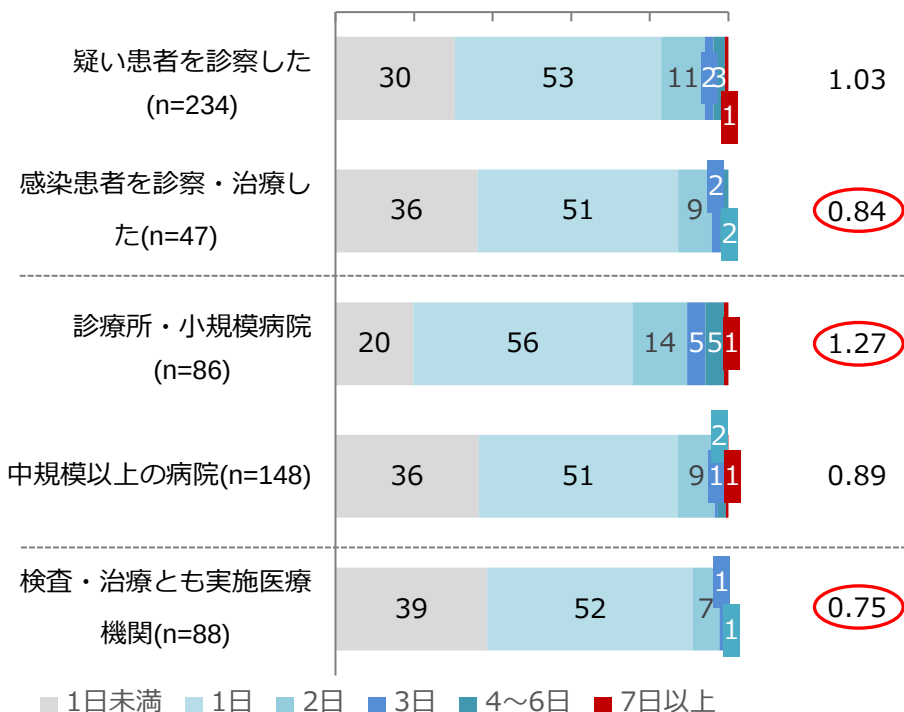
Q10_S1. 新型コロナウイルス感染が疑われる患者のPCR検査を依頼後、実際に検査が行われ、結果が分かるまでに日数がかかると言われています。お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください。/ Q10_S2. お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください
(OA, -/-/-/-/8月/10月/12月調査)

- 勤務先医療機関が検査・治療ともに実施しているケースは「依頼してから検査実施まで」の平均日数が最も短く、0.75日。「実施してから結果が出るまで」の1.19日との合計で2日を切っている。感染患者を診察・治療した医師も、それぞれ0.84日、1.18日で、2日程度であった。
- 医療機関種別で見ると、診療所・小規模病院で「検査実施まで」が平均1.27日、「実施してから結果が出るまで」が1.60日で、合計3日近くかかっているようだ。

「依頼してから検査実施まで」にかかる日数

Base:「医師が検査を必要とした」回答者

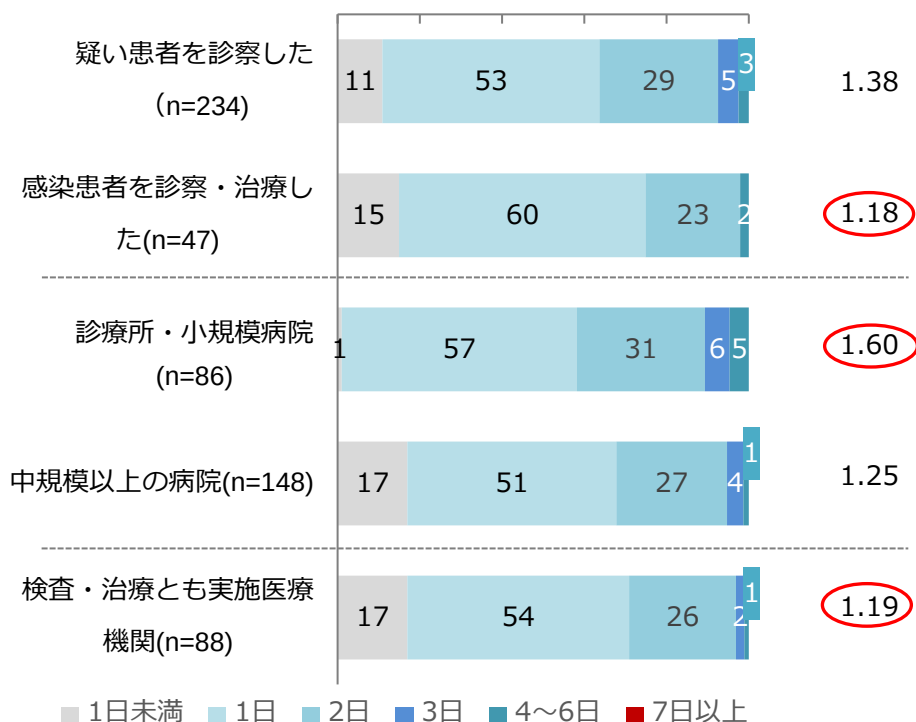
0% 20% 40% 60% 80% 100% 平均日数 (0日を含む)



「実施してから結果が出るまで」にかかる日数

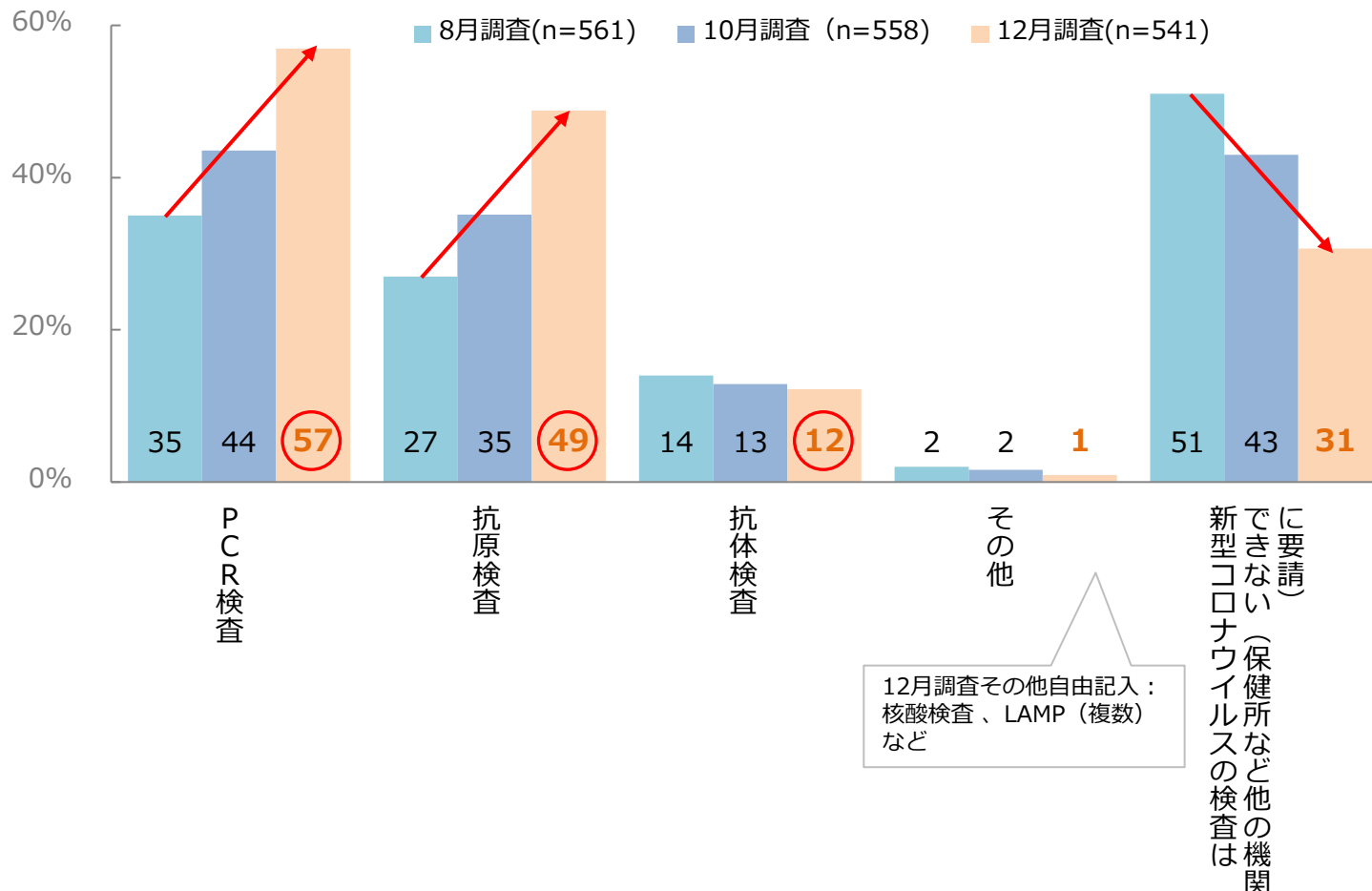
Base:「医師が検査を必要とした」回答者

0% 20% 40% 60% 80% 100% 平均日数 (0日を含む)



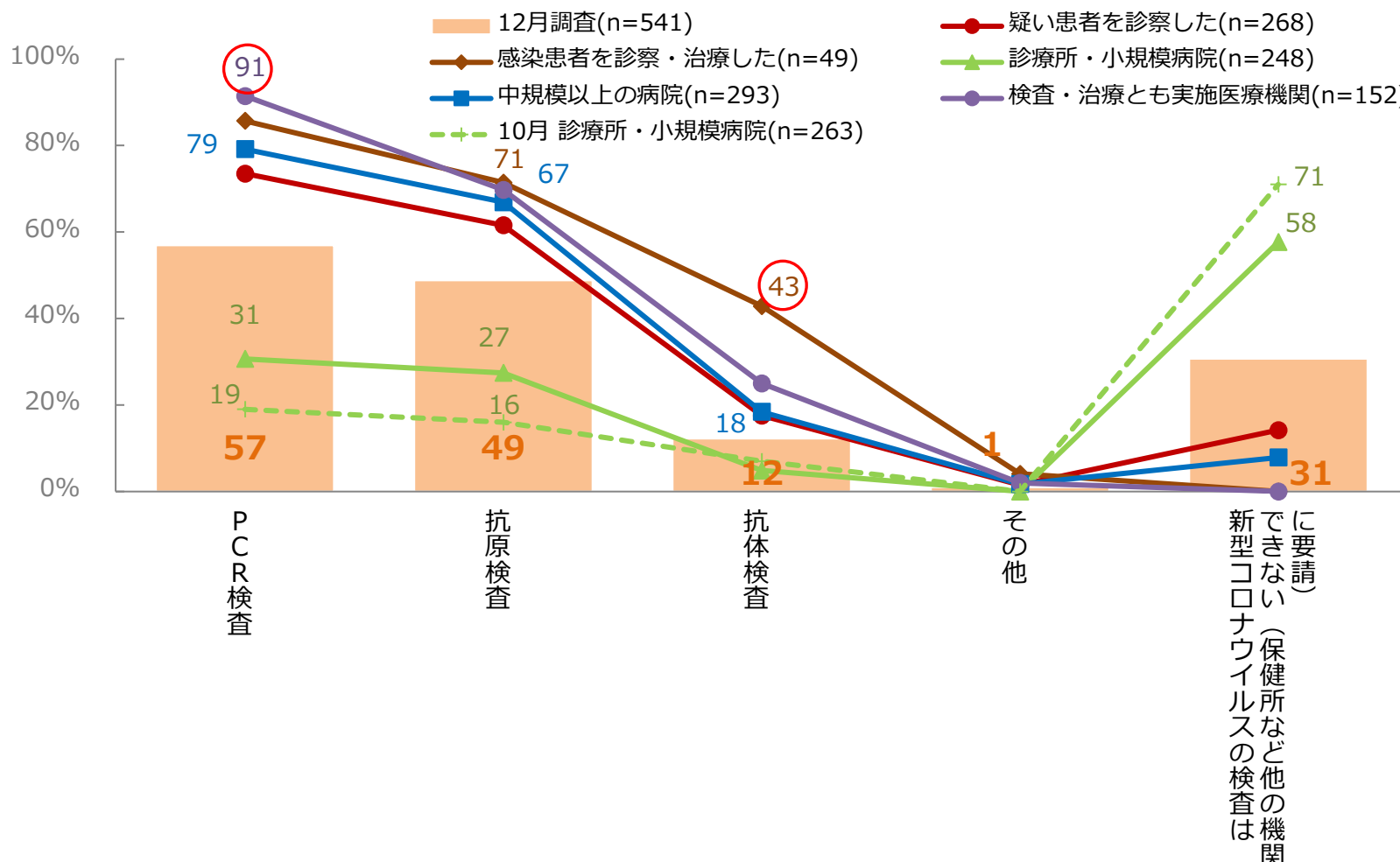
Q10_S1. 新型コロナウイルス感染が疑われる患者のPCR検査を依頼後、実際に検査が行われ、結果が分かるまでに日数がかかると言われています。お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください。/ Q10_S2. お勤めの医療機関でのPCR検査、または、お勤めの医療機関経由で他の医療機関や保健所などへ委託される場合のPCR検査にかかる日数を教えてください
(OA, 一/一/一/一/8月/10月/12月調査)

- お勤めの医療機関で実施可能な検査を聞いた。「新型コロナウイルスの検査はできない(他の機関に要請)」は51%→43%→31%と減少傾向。8月以降、検査可能施設の拡充が進んでいるようだ。
- 実施可能な検査別にみると、「PCR検査」が最も高く全体の57%を占め、10月時点よりも13ポイントと増加。次いで「抗原検査」が49%、10月時点よりも14ポイントの増加。「抗体検査」は12%であった。



Q11. 先生がお勤めの医療機関における新型コロナウイルスの検査体制についてお伺いします。お勤めの医療機関で実施可能な検査を教えてください
(MA, -/-/-/-/8月/10月/12月調査)

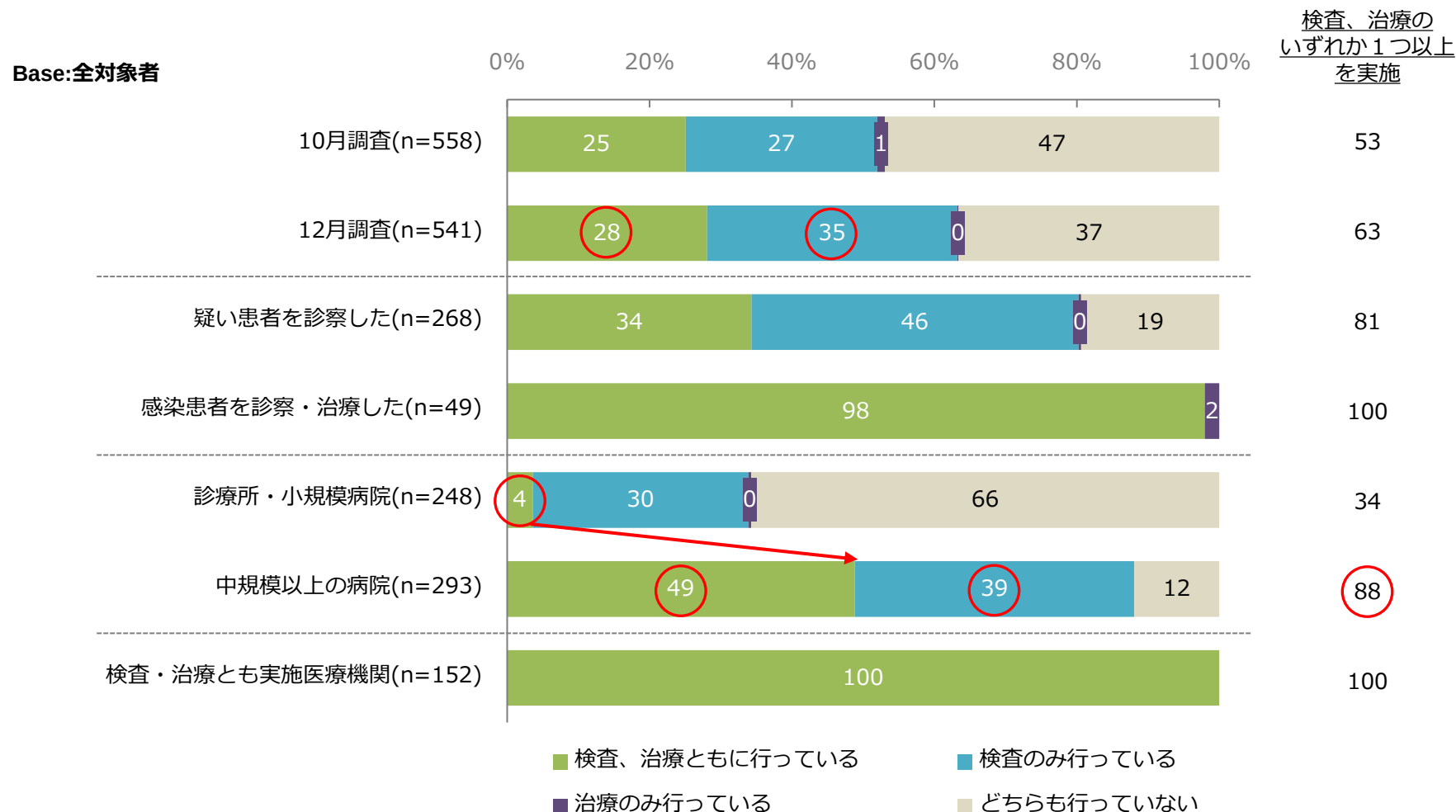
- 検査・治療とも実施医療機関のPCR検査は9割超。感染患者を診察・治療した医師も全般的に高めで、抗体検査は4割超が選択している。
- 医療機関の規模別にみると、中規模以上の病院と、診療所・小規模病院の選択率の差が著しい。中規模以上の病院は、PCR検査を79%、抗原検査を7割弱、抗体検査を2割弱が実施可能と回答。一方診療所・小規模病院は、最も高いPCR検査でも3割超。「検査はできない」も10月より少なくなったが未だ過半数を占めている。検査の拡充は、まだ診療所・小規模病院まで十分には追いついてはいない実態がみとれる。



Q11. 先生がお勤めの医療機関における新型コロナウイルスの検査体制についてお伺いします。お勤めの医療機関で実施可能な検査を教えてください
(MA, -/-/-/-/8月/10月/12月調査)

医療機関で実際に検査や治療を行っているか

- 勤め先の医療機関で実際に検査や治療を行っているかを聞くと、「検査・治療ともに行っている」が28%、「検査のみ行っている」が35%、「治療のみ行っている」が0.2%。6割超が、実際に検査や治療を行っていた。
- 「検査、治療ともに行っている」の割合は、中規模以上の病院が49%であるのに対し、診療所・小規模病院は4%に留まり、医療機関種別により大きな開きがある。「検査のみ行っている」39%を含めると、中規模以上の病院の9割近くが検査または治療を行っていることになる。

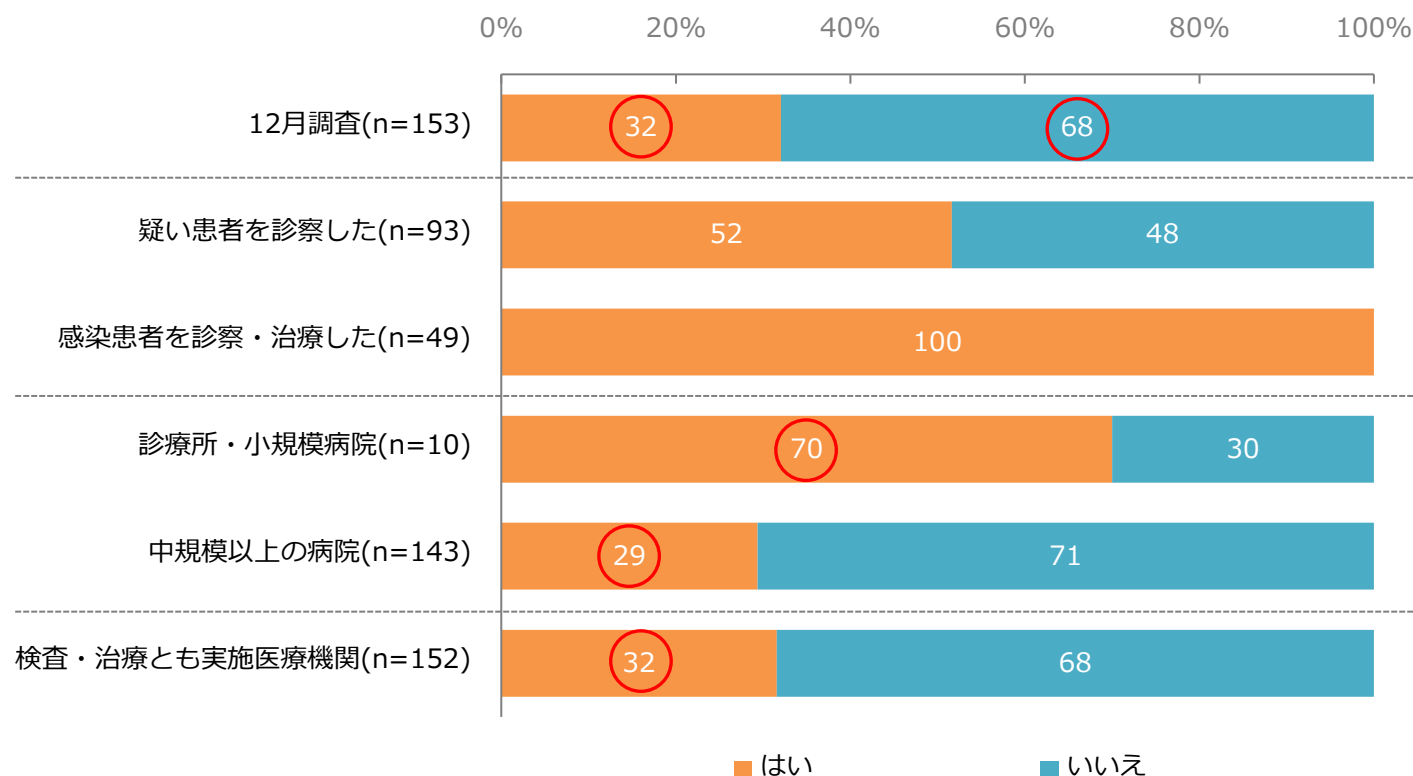


Q12. お勤めの医療機関では、新型コロナウイルス感染症の検査や患者の治療を、実際に行っていますか (SA, -/-/-/-/-/10月/12月調査)

先生自身が実際に診察・治療を行っているか

- 勤務先医療機関で検査や治療を行っていると回答した医師に、自身が実際に診察・治療を行っているかを聞くと、「はい(診察・治療を行っている)」が32%、「いいえ(診察・治療を行っていない)」は68%で3分の2以上を占めた。
- 先生自身が行っている割合は、中規模以上の病院では29%に留まったが、診療所・小規模医院では70%に上る。検査ができるようになった施設では、回答医師自らが検査、診療に関与する機会が多くなったものと思われる。反対に、専門分野のみ担当する勤務医の割合が多い、検査・治療とも実施の医療機関では、「先生ご自身が検査や治療を行っている」の回答は、32%に留まる。

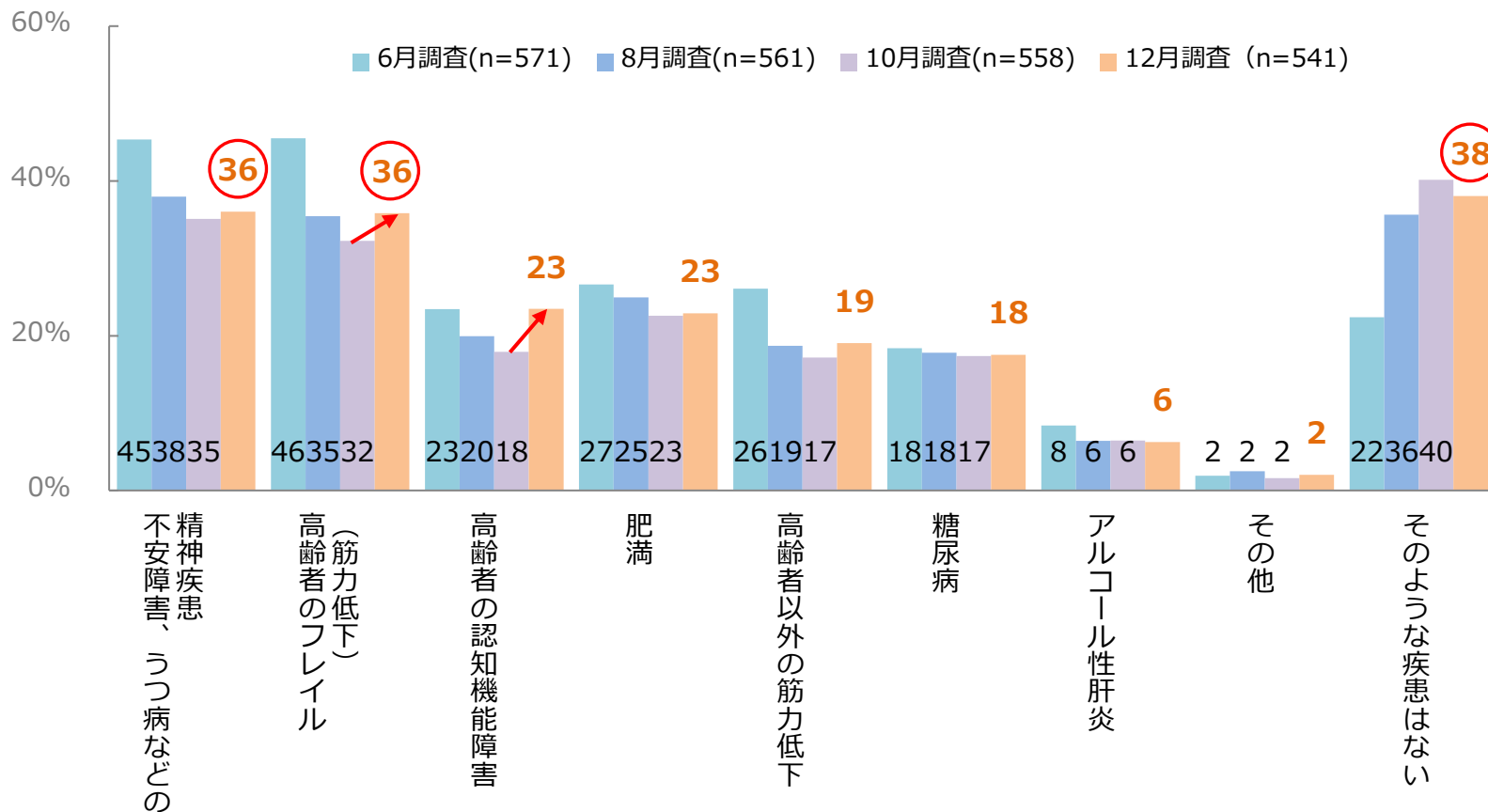
Base: 前問で医療機関が検査や治療を行っていると回答



Q13. 先生ご自身は、新型コロナウイルスへの感染が確認された患者の診察・治療を、実際に行っていますか。(SA, -/-/-/-/-/12月調査)

増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患

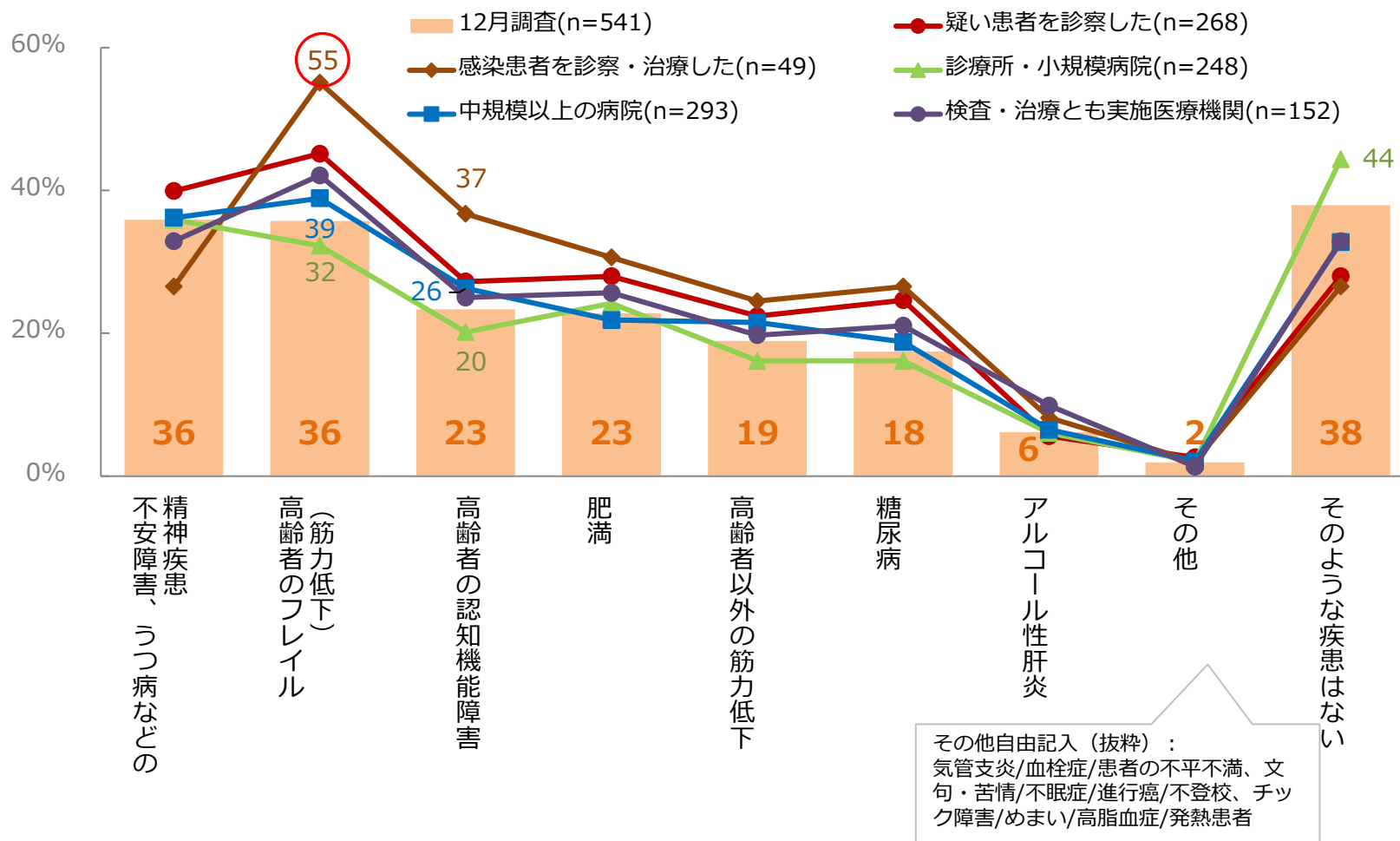
- 新型コロナウイルスの流行や生活環境の変化で増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患は、10月調査と選択率が全般的にほぼ同レベルにあり、「そのような疾患はない」は4割弱。
- 最も高かったのは「精神疾患」で、36%の医師が選択していた。「高齢者のフレイル」も36%。「高齢者のフレイル」と「高齢者の認知機能障害」は、10月調査時点よりやや選択率が上昇。COVID-19の流行の長期化により、高齢者が影響をうけている様子がみてとれる。



Q14. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください
(MA, -/-/-/6月/8月/10月/12月調査)

増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患

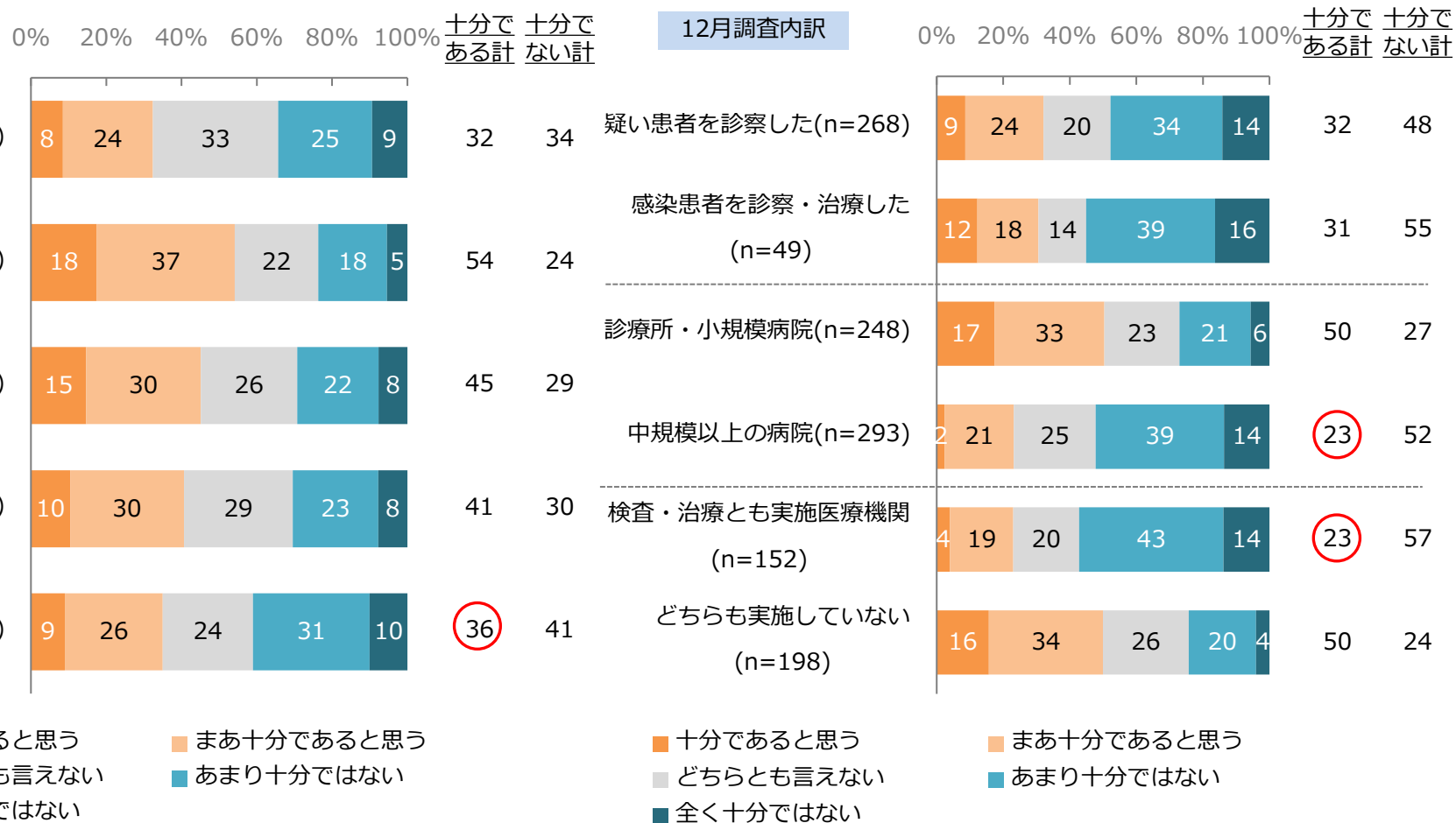
- 感染患者を診察・治療した医師の選択率が全般的にやや高め。特に「高齢者のフレイル」では選択率が55%に上る。
- 医療機関種別では、中規模以上の病院が、高齢者の「フレイル」「認知機能障害」で、診療所・小規模病院より選択率が高い。中規模以上の病院が、中等度以上の症状のコロナ患者をより受け入れ、高齢者の診療にも広くあたったことが一因であろう。



糖尿病の重症化参考：https://www.nittokyo.or.jp/modules/patient/index.php?content_id=90

Q14. 新型コロナウイルスの流行、生活環境の変化などで、今増えつつある、症状が深刻化しつつある疾患をすべてお選びください
(MA, -/-/-/6月/8月/10月/12月調査)

- 勤務先の医療スタッフの充足状況については、6月以降、低下傾向が続いている。「十分である」計が8月→10月は4ポイント減少、10月→12月は5ポイント減少し、3割台。「十分でない」計は、10月時点より10ポイント増加し、4割超に達した。第三波の影響は大きい。
- 検査・治療とも実施医療機関の「十分である」は23%に留まり、「十分でない」が過半数。診療の中核を担う医療機関では人員不足感が強い。
- 医療機関種別で見てみると、診療所・小規模病院では「十分である」計が50%に上る。診療所・小規模病院は、中規模以上の病院に比べ、人員不足のひっ迫感は弱いようだ。



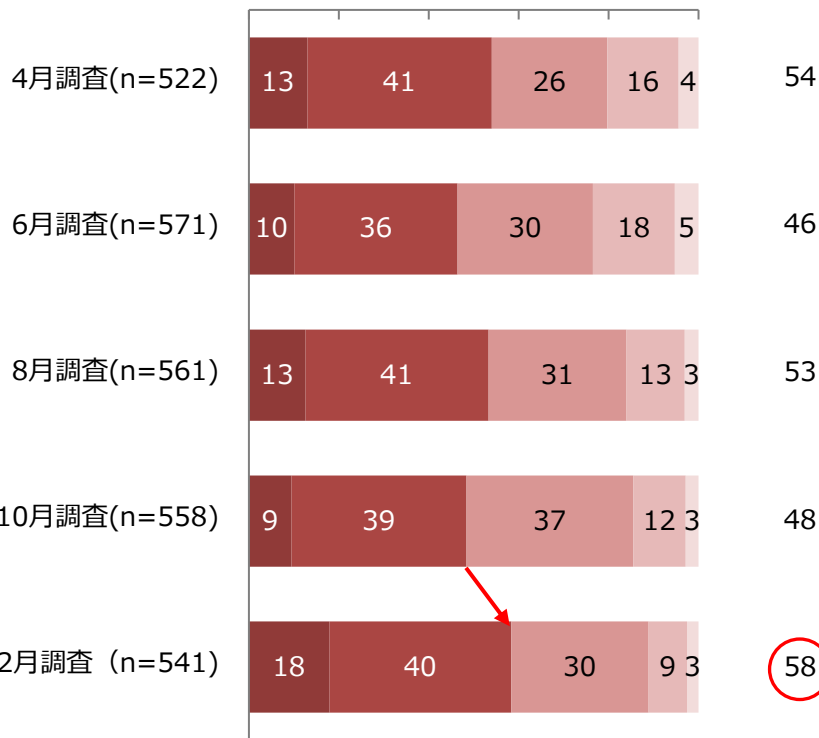
Q15. 先生のお勤めの医療機関では、緊急対策の影響でスタッフの数が足りないなどの状況がありますか。お勤めの施設のスタッフ数についてお答えください
(SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 医療スタッフの疲弊度も10月より上昇し、「疲弊が高まっている」計が10ポイント増加し、58%となった。
- 感染患者を診察・治療した医師の中では、疲弊が「かなり高まっている」が4割を超え、「高まっている」計が9割に上る。検査・治療とも実施の医療機関でも8割近くが、「疲弊が高まっている」と回答。人員不足感とともに、実際に診療にあたっている医療スタッフの疲弊が著しいようだ。

0% 20% 40% 60% 80% 100% 高まっ
ている計

12月調査内訳

0% 20% 40% 60% 80% 100% 高まっ
ている計



■ 疲弊がかなり高まっている ■ 疲弊がやや高まっている
■ どちらとも言えない ■ あまり疲弊していない
■ 全く疲弊していない

疑い患者を診察した(n=268)

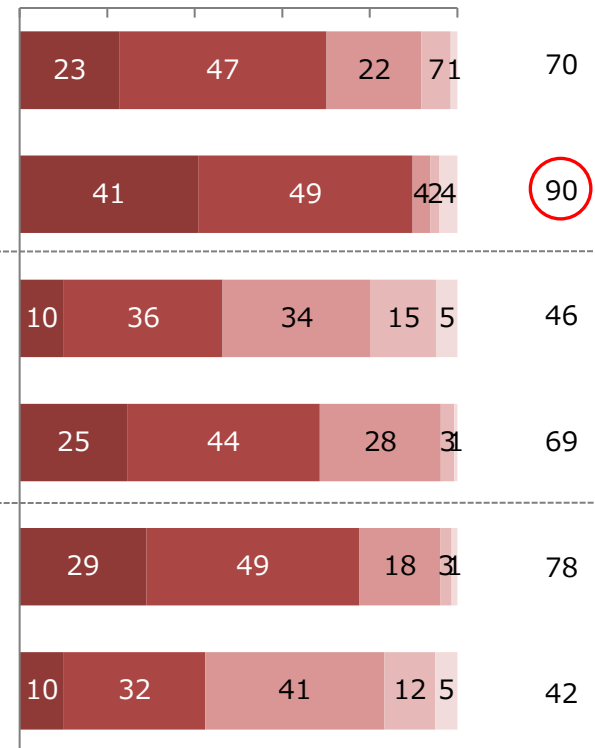
感染患者を診察・治療した
(n=49)

診療所・小規模病院(n=248)

中規模以上の病院(n=293)

検査・治療とも実施医療機関
(n=152)

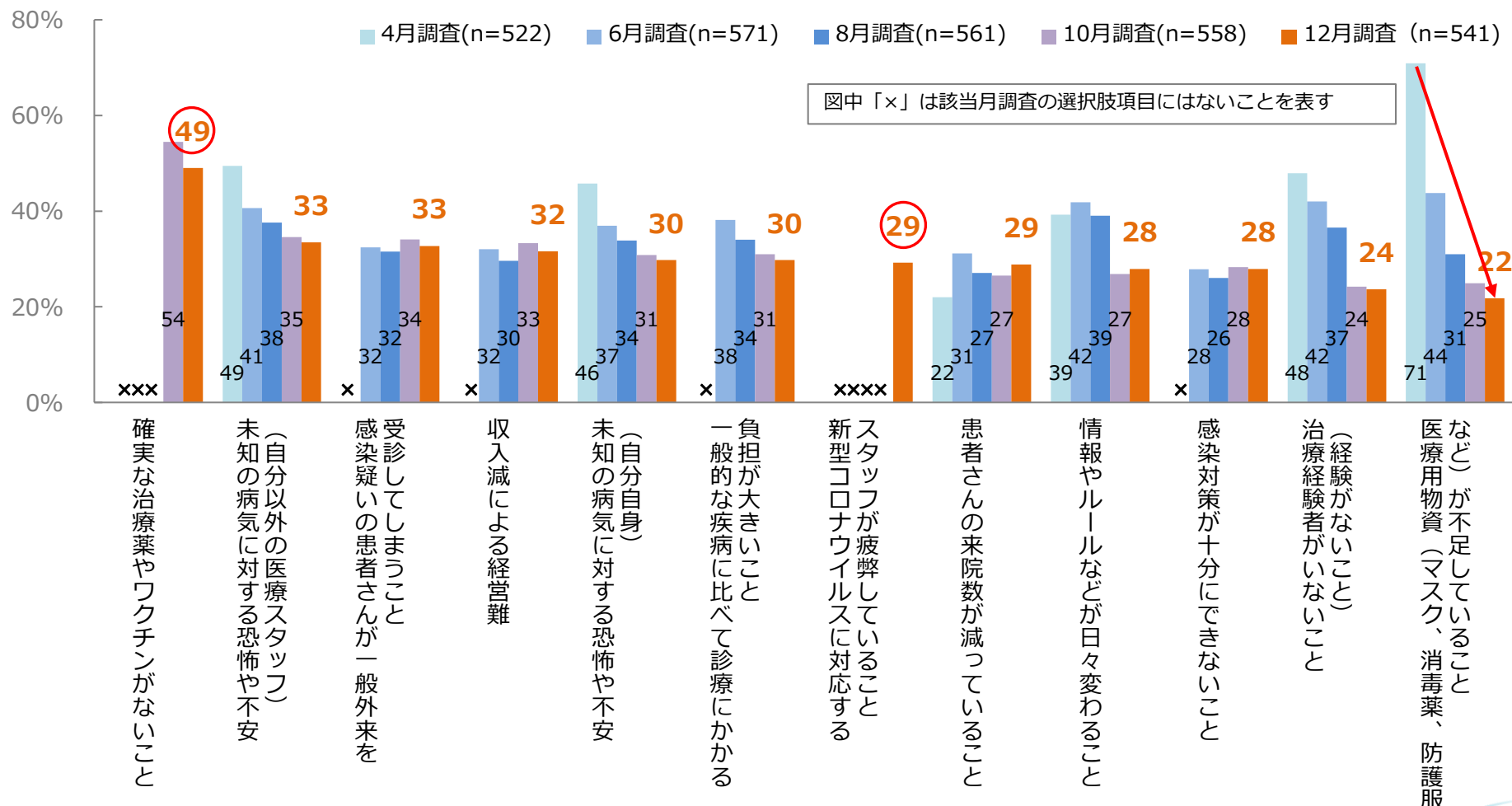
どちらも実施していない
(n=198)



■ 疲弊がかなり高まっている ■ 疲弊がやや高まっている
■ どちらとも言えない ■ あまり疲弊していない
■ 全く疲弊していない

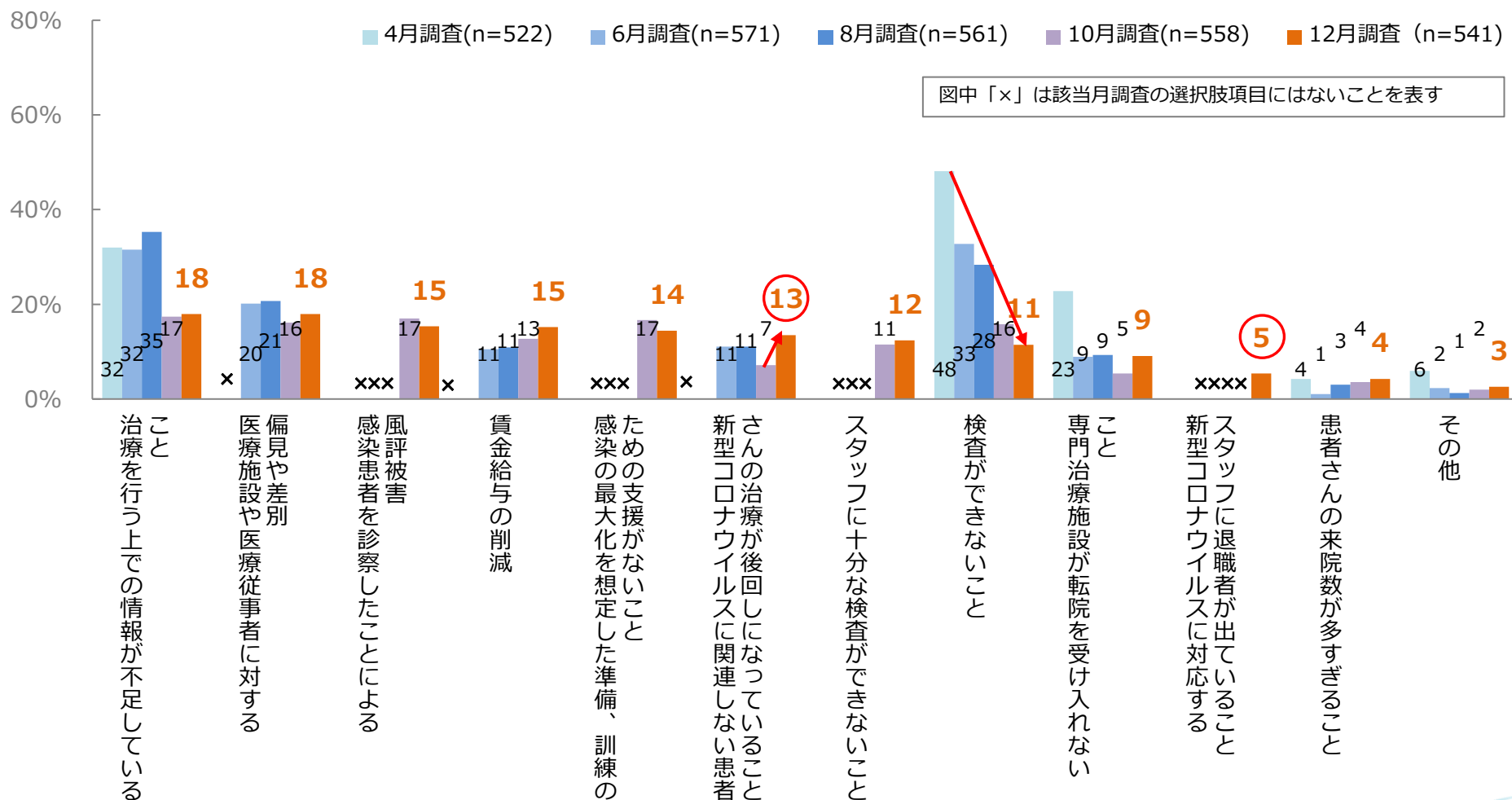
Q16. 先生のお勤めの医療機関では、コロナウイルス感染症の影響で医師を含む医療従事者の疲弊が高まっていると思われますか
(SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 医療現場で困っていることの選択率は、12月調査も全体的にやや下降傾向が続く。10月に引き続き「確実な治療薬やワクチンがないこと」が約半数で最も多い。
- 4月時点で最も多かった「医療用物資の不足」は月ごとに大きく減少、10月から3ポイントの減少。12月調査で追加した、「新型コロナウイルスに対応するスタッフが疲弊していること」は、3割弱が選択した。



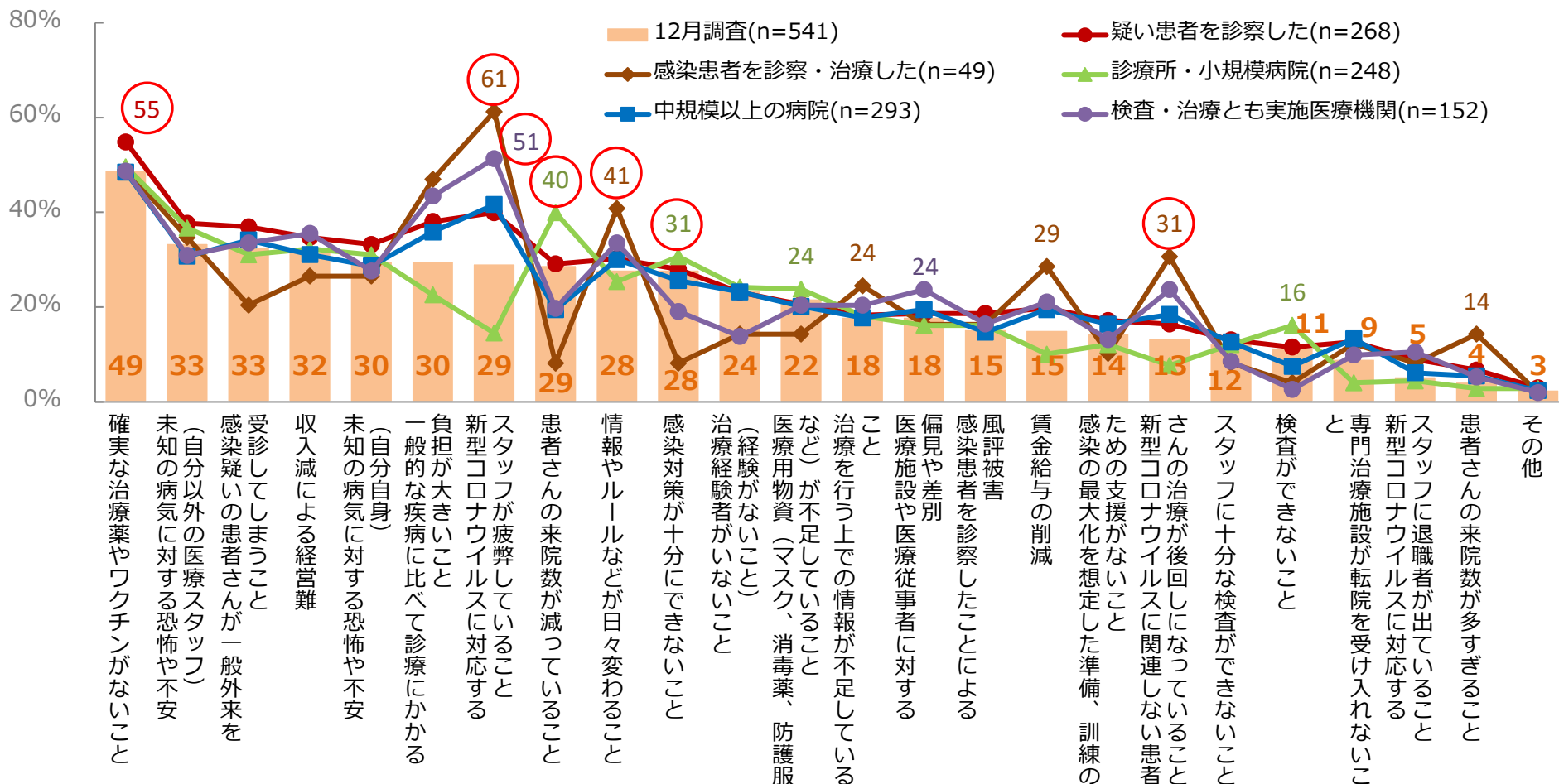
Q17. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 4月時点では、2番目に多かった「検査ができないこと」も10月よりさらに5ポイント減少し、1割程。12月に追加した、「新型コロナウイルスに対応するスタッフに退職者が出ていること」は5%に留まる。
- 10月時点より上昇したのは、「新型コロナウイルスに関連しない患者さんの治療が後回しになっている」で、6ポイント増加し13%となった。それ以外は10月と同等の選択率であった。



Q17. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

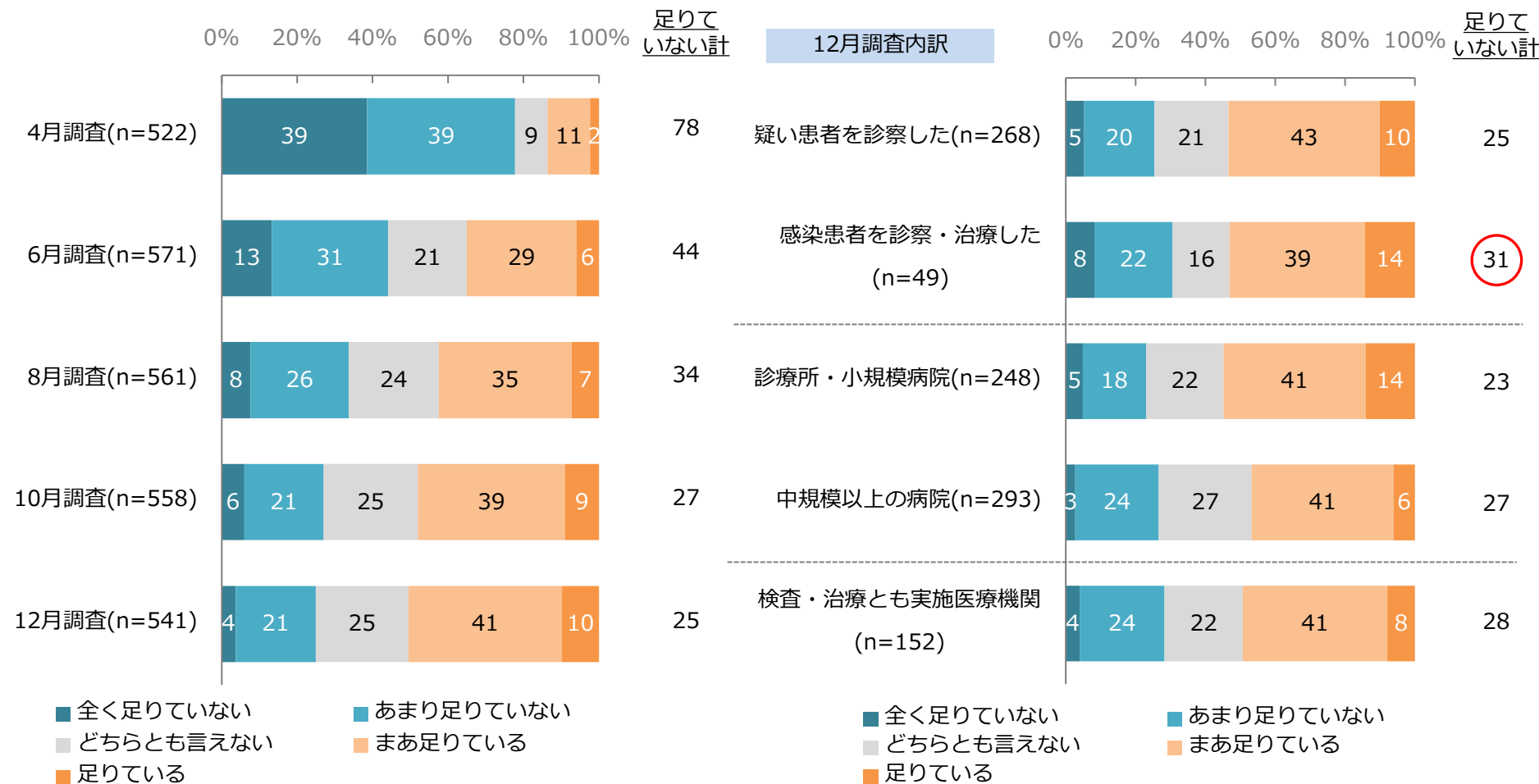
- 疑い患者を診察した医師は、「確実な治療薬やワクチンがないこと」を過半数が選択した。12月に追加した、「新型コロナウイルスに対応するスタッフが疲弊していること」は、感染患者を診察・治療した医師の6割超、検査・治療とも実施医療機関の過半数が選択し、当該グループでは最も高い選択率。最前線の現場で、スタッフの疲弊に危機感がつのる状況がうかがえる。
- グループ間では感染患者を診察・治療している医師の選択率が全般的に高く、「スタッフの疲弊」に加えて、「情報やルールなどが日々変わる」が41%、「新型コロナウイルスに関連しない患者の治療が後回しになっている」が31%と、他グループより高い。診療所・小規模病院では、「患者さんの来院数が減っていること」が4割、「感染対策が十分にできない」が31%と相対的に高めの傾向は、今回も継続している。



Q17. 最前線で「新型コロナウイルス」に対応する医師として、今、現場で先生が特に困っていることはなんですか。あてはまるものをすべてお選びください
(MA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

必要な医療資材の充足状況

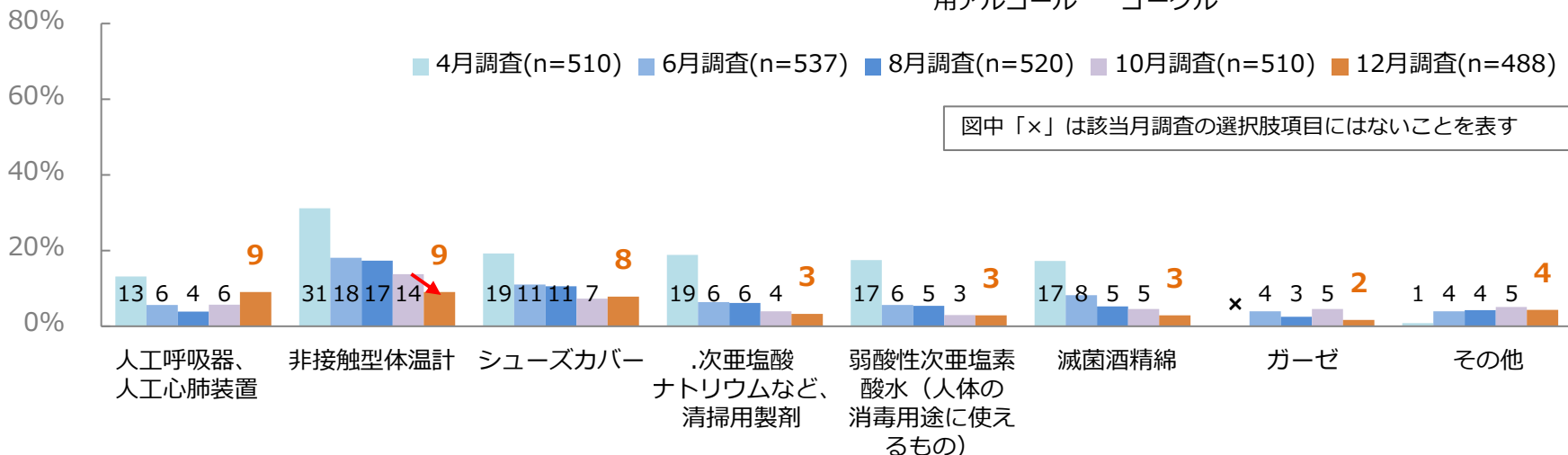
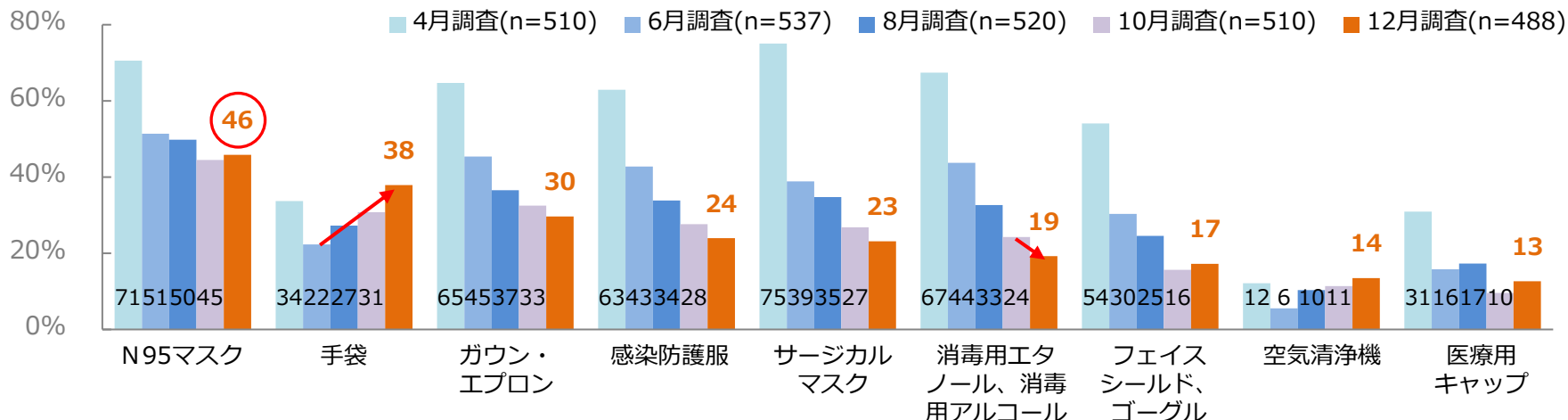
- 必要な医療資材が「足りていない」（「全く」、「あまり」の計）は25%に留まり、「足りている」計が5割超と、10月とほぼ同レベル。
- 感染患者を診察・治療した医師では、3割超が「足りていない」と回答。検査・治療とも実施医療機関と、中規模以上の病院のいずれも、不足感は3割弱。
- 医療機関規模別にみると、中規模以上の病院は、診療所・小規模医院に比べ、不足感がやや高め。



Q18. 先生のお勤めの医療機関では、医療用マスクや、ゴーグル、防護服など感染症診療の際に必要な資材は足りていますか
(SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 不足している資材の選択率を見ると、全般的には4月以降改善傾向が続いているが、N95マスクは8月以降大きな変化がなく46%が不足していると回答した。「手袋」は、10月時点よりさらに不足感が上昇し、38%が挙げた。
- 10月調査との比較で5ポイント改善したのは、「消毒用エタノール、アルコール」と「非接触型体温計」で、前者の不足感は2割を、後者は1割を切った。

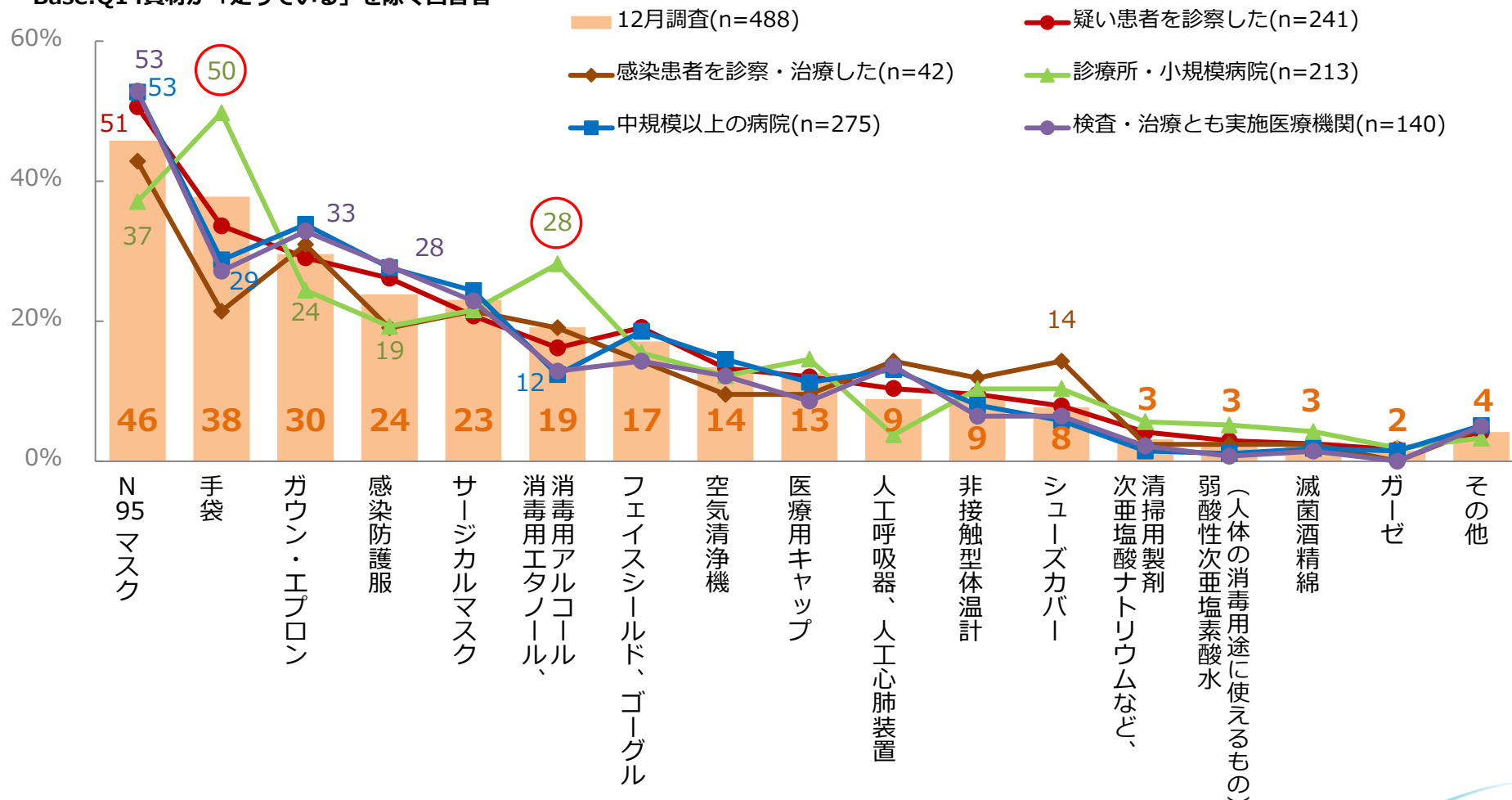
Base: Q14資材が「足りている」を除く回答者



Q19. お勤めの医療機関で、不足している／ストックが残り少ないものがありましたら、下記のリストからあてはまるものをすべてお選びください
(MA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

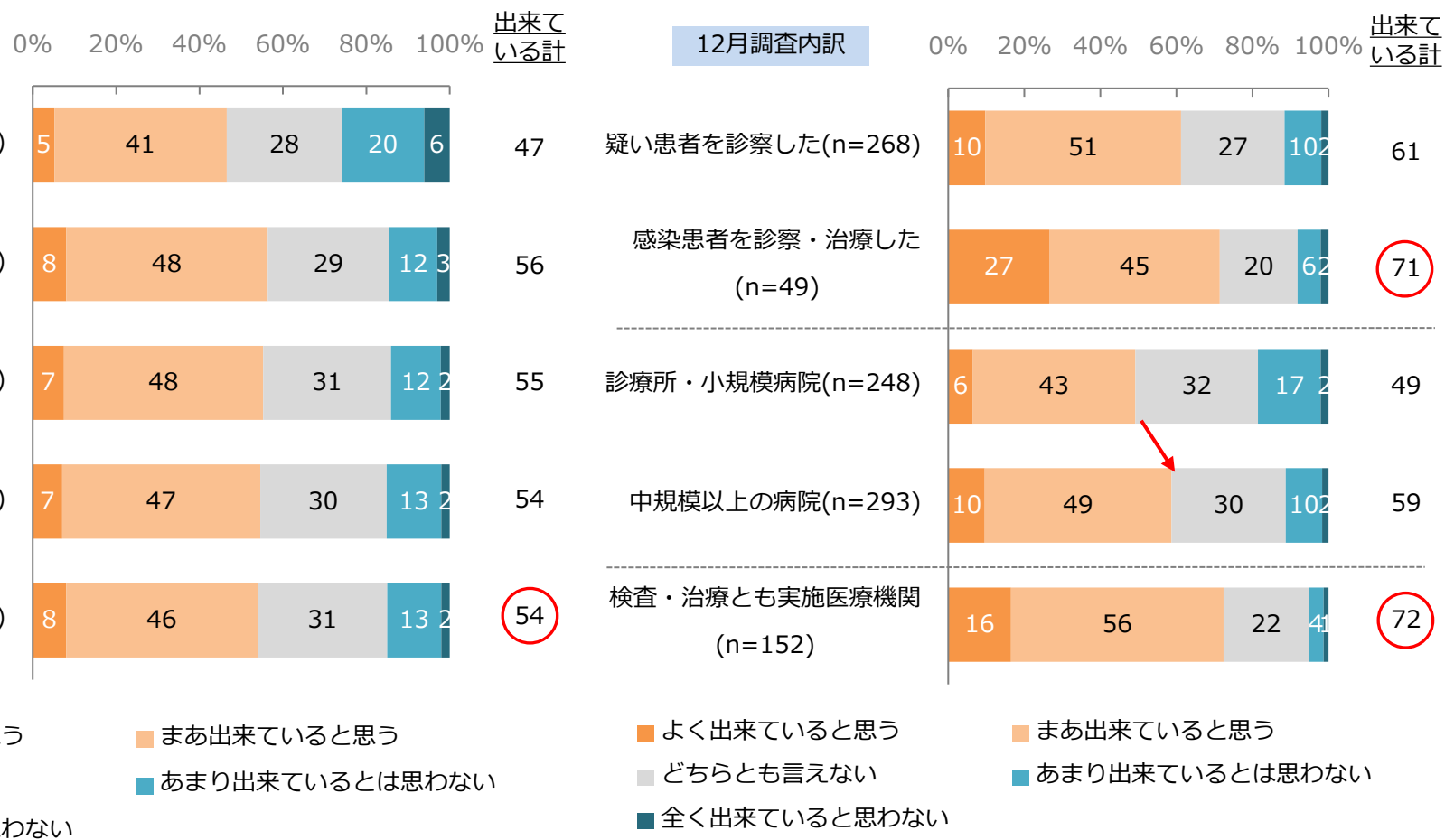
- 医療機関種別では全般的な傾向に大きな違いはないが、検査・治療とも実施医療機関と、疑い患者を診察した医師、中規模以上の病院の過半数が、N95マスクを挙げた。
- 医療機関規模別にみると、中規模病院では、「N95マスク」が診療所・小規模病院に比べ16ポイント、「ガウン・エプロン」と「感染防護服」がそれぞれ10ポイント近く高い選択率。対して、診療所・小規模病院では「手袋」が、中規模以上の病院よりも21ポイント、「消毒用エタノール、消毒用アルコール」が16ポイント高い選択率。

Base: Q14資材が「足りている」を除く回答者



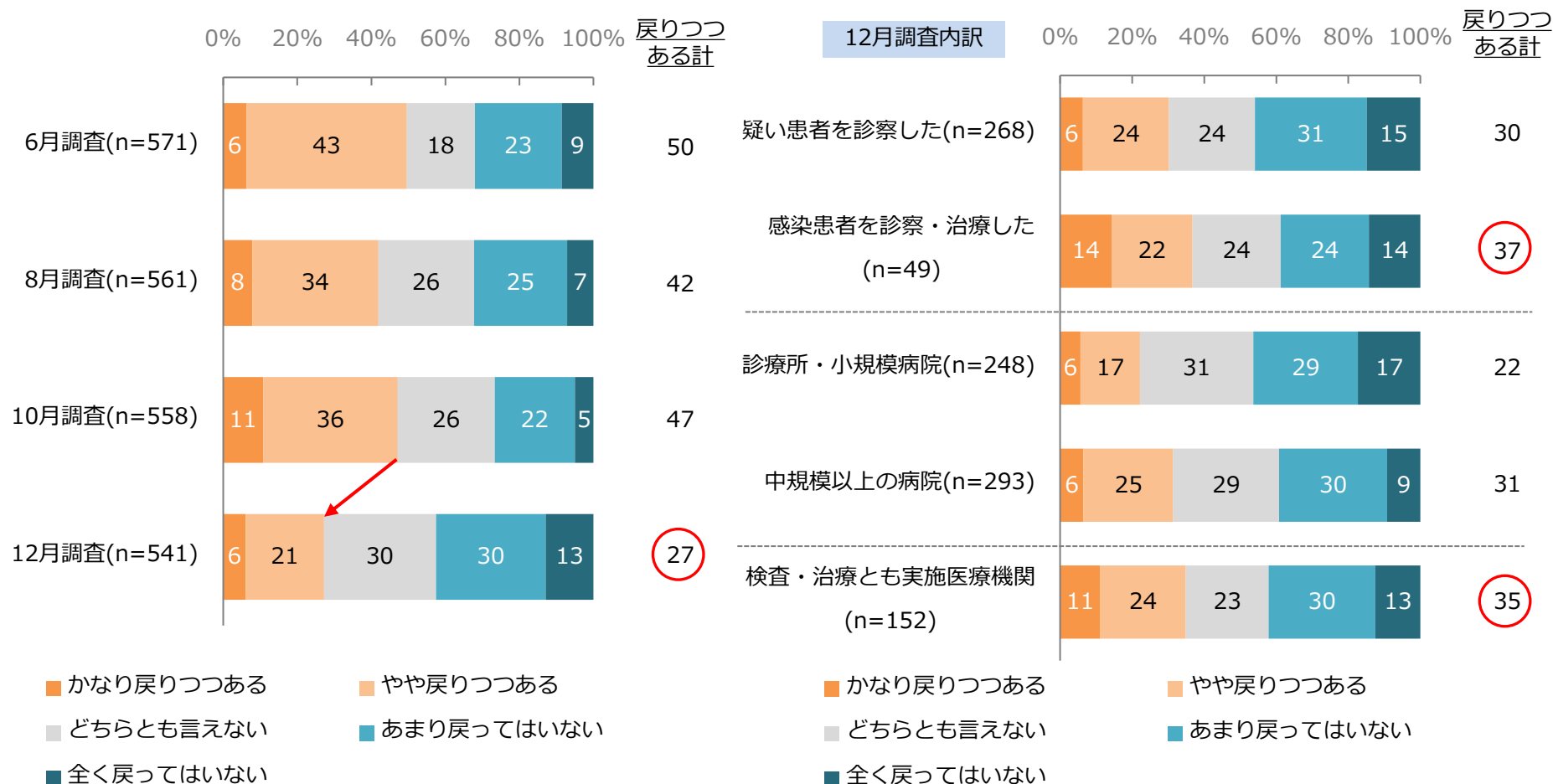
Q19. お勤めの医療機関で、不足している／ストックが残り少ないものがありましたら、下記のリストからあてはまるものをすべてお選びください
(MA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 院内感染対策については、「出来ている」「よく」、「まあ」の計)との回答が6月以降はほぼ変化なく、12月は54%。
- 感染患者を診察・治療した医師、検査・治療ともに実施医療機関の7割超が「出来ている」。
- 医療機関種別では、中規模以上の病院で「出来ている」が6割弱で、診療所・小規模病院の49%に比べ、10ポイント高い。



Q20. 先生は、院内の感染対策についてどのようにお考えでしょうか (SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

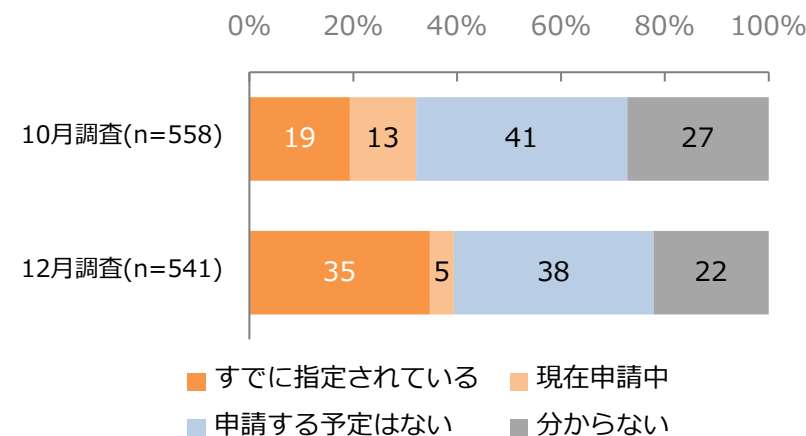
- 来院患者数が、新型コロナウイルス拡大以前の状況に戻りつつあると思われるかを聞いたところ、12月は全体の3割弱が「戻りつつある」「かなり」、「やや」の計）と回答するに留まり、10月に比べ、20ポイント減少し過去最少となった。「戻ってはいない」計は全体の4割超に拡大、患者が再度受診を控えはじめているようだ。
- 新型コロナウイルスの検査や診察・治療にも対応している医師、医療機関であっても、「戻りつつある」は3割台で、診療所・小規模病院では2割程度に留まっている。



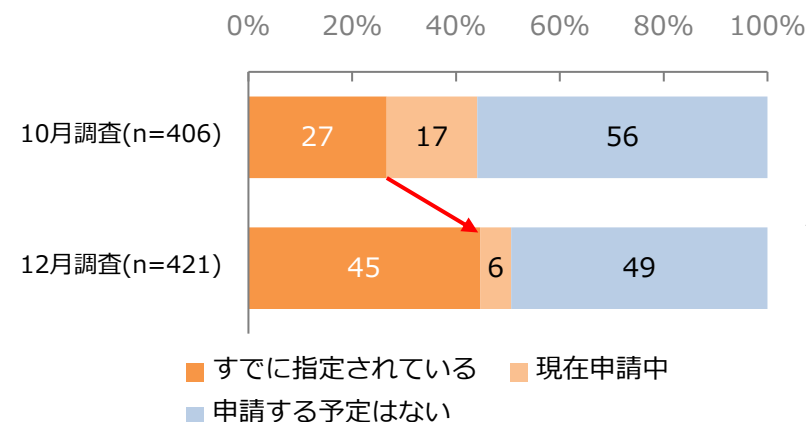
Q21. 先生のお勤めの医療機関では、来院患者数は新型コロナウイルス拡大以前の状況に戻りつつあると思われますか (SA, -/-/6月/8月/10月調査/12月調査)

「診療・検査医療機関」としての申請状況

- 「診療・検査医療機関」の申請状況について、「分からない」を除いた結果で見ると、「すでに指定されている」は全体の45%で、10月から18ポイント増。
- 「すでに指定されている」との回答は、感染患者を診察・治療した医師はベースが小さいながら8割超、検査・治療ともに実施している医療機関の85%に上っている。
- 医療機関規模別では、「すでに指定されている」は中規模以上の病院の約6割、診療所・小規模病院では3割程と開きがある。診療所・小規模病院の6割超が「申請する予定はない」と回答。

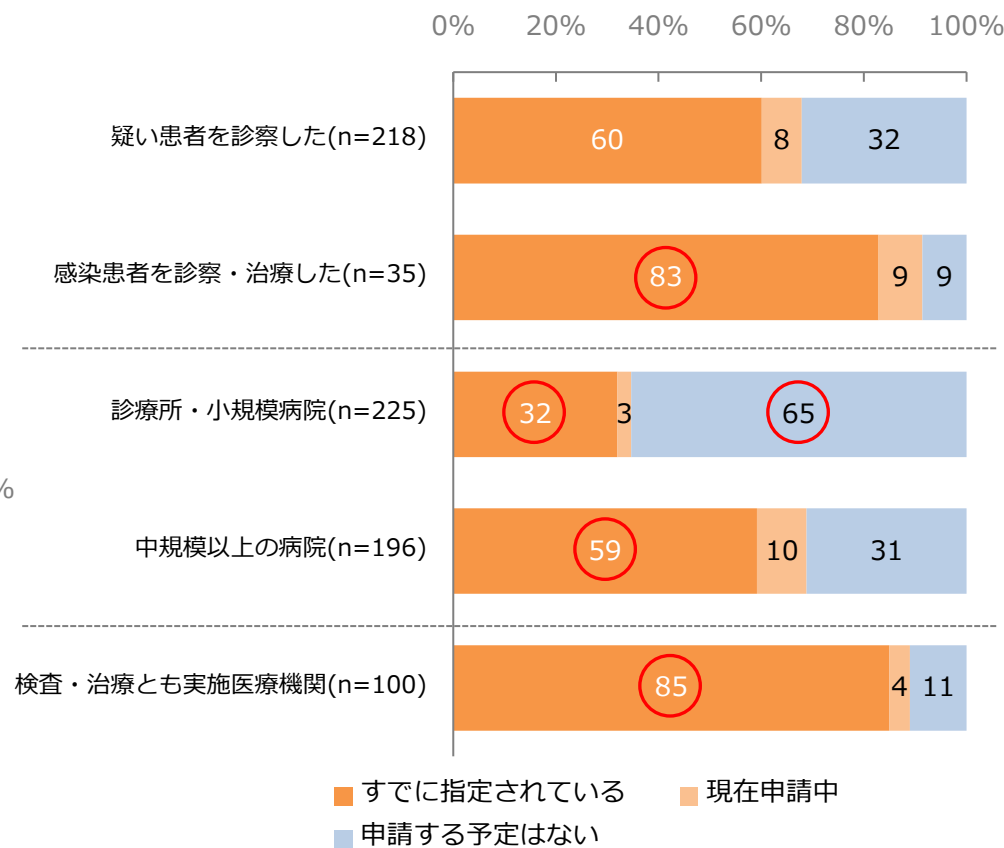


Base:「分からない」を除く回答者



12月調査内訳

Base:「分からない」を除く回答者



Q22. 先生がお勤めの医療機関は、「診療・検査医療機関（仮称）」として申請・指定されていますか（OA, -/-/-/-/10月/12月調査）

- 新型コロナウイルス患者診察にともなう、追加業務を聞いた。アルコール消毒をはじめとする、院内・機器の消毒、清掃および検温に加え、患者の動線を分け、適切に誘導するためのトリアージや差配があらたに医療スタッフの負担となっている様子。また、検査に関わる勉強や手続き、コロナ対策のための会議が増えた、患者への電話対応、連絡が増えたというコメントが複数みられた。

新型コロナウイルス患者診察にともなう追加業務 (医師都道府県・主診療科目)

【院内・機器消毒】

- ・アルコール消毒 (愛知県・眼科) (大阪府・腎臓内科) (長崎県・泌尿器科) 他多数
- ・こまめな消毒作業 (三重県・内科)
- ・院内の消毒、器具の消毒の徹底、感染防具の管理、着脱 (滋賀県・耳鼻いんこう科)
- ・院内の消毒・機器の消毒 (北海道・その他)
- ・電力のアルコール消毒 (東京都・脳神経外科)

【感染予防】

- ・感染対策 (山梨県・消化器科内科 (胃腸内科)) (大阪府・腎臓内科) (福島県・内科) 他多数
- ・衛生強化 (岡山県・内科)
- ・検査 感染予防 (兵庫県・外科)

【清掃】

- ・清掃 (山口県・内科) (新潟県・循環器内科) (大阪府・内科) 他多数
- ・病室の清掃 (大阪府・皮膚科)
- ・病室の清掃、病室のごみの収集 (宮城県・呼吸器内科)

【発熱外来開設】

- ・発熱外来 (山口県・小児科) (兵庫県・外科) (茨城県・外科) 他多数
- ・発熱外来の開設 (岐阜県・循環器内科)

【検温】

- ・検温 (神奈川県・耳鼻いんこう科) (愛知県・整形外科) (東京都・心臓血管外科 (循環器外科)) (佐賀県・内科) (千葉県・精神科) 他多数
- ・外来入り口で検温 (愛知県・循環器内科)

【動線を分ける・誘導・トリアージ】

- ・患者の誘導 (東京都・糖尿病内科 (代謝内科))
- ・PPEの装着や、異なる動線への誘導・説明など (岡山県・血液内科)
- ・隔離の采配 (山形県・脳神経外科)
- ・患者が院内を移動するときの人払い (群馬県・内科)
- ・患者にトリアージ (石川県・整形外科)
- ・(大阪府・内科) (岐阜県・内科) (宮城県・呼吸器内科) 他多数
- ・患者同線など各種案内や不必要なまでの感染対策 (愛媛県・呼吸器外科)
- ・発熱者への別会計処理 (滋賀県・耳鼻いんこう科)

【防護服の着脱・廃棄】

- ・ガウン装着などの感染対策の身支度 (千葉県・呼吸器内科) (滋賀県・内科) 他
- ・ガウンテクニック (山口県・皮膚科)
- ・ガウン等を着ての診療 (長野県・腎臓内科)
- ・PPEの着脱 (鹿児島県・内科)

【検査に関わること】

- ・PCR検査のための時間と手順勉強 (兵庫県・整形外科)
- ・コロナウイルスPCR検査介助 (山形県・腎臓内科)
- ・コロナ疑い患者の検体採取 (京都府・血液内科)
- ・ドライブスルーPCR検査 (奈良県・脳神経外科)
- ・血液検査の追加 (神奈川県・その他)
- ・骨折でも発熱あれば感染対策して抗原検査する (東京都・整形外科)
- ・手術前検査 (愛知県・外科)

【連絡対応・電話対応】

- ・あとで濃厚接触の可能性を申し出られて対応に追われる (岡山県・脳神経外科)
- ・患者、PCRセンターとの連絡業務 (長野県・内科)
- ・行動履歴や電話番号、診察時間予約、環境消毒などすべての手間が増加 (愛媛県・内科)
- ・電話での問診 (大分県・耳鼻いんこう科)
- ・電話の応対が異常に増えた (山梨県・循環器内科)
- ・電話診療 (電話で連絡する) (埼玉県・内科) (神奈川県・小児科) 他多数
- ・外部からの相談 (香川県・精神科)

【体制】

- ・コロナ病棟の業務担当の輪番制 (岐阜県・腎臓内科)
- ・休日出勤 (大分県・呼吸器内科)
- ・体調不良スタッフの管理 (岡山県・小児科)
- ・クラスター発生時の保存的対応など (静岡県・精神科)
- ・患者及び家族の詳細な病状聴取 (新潟県・循環器内科)

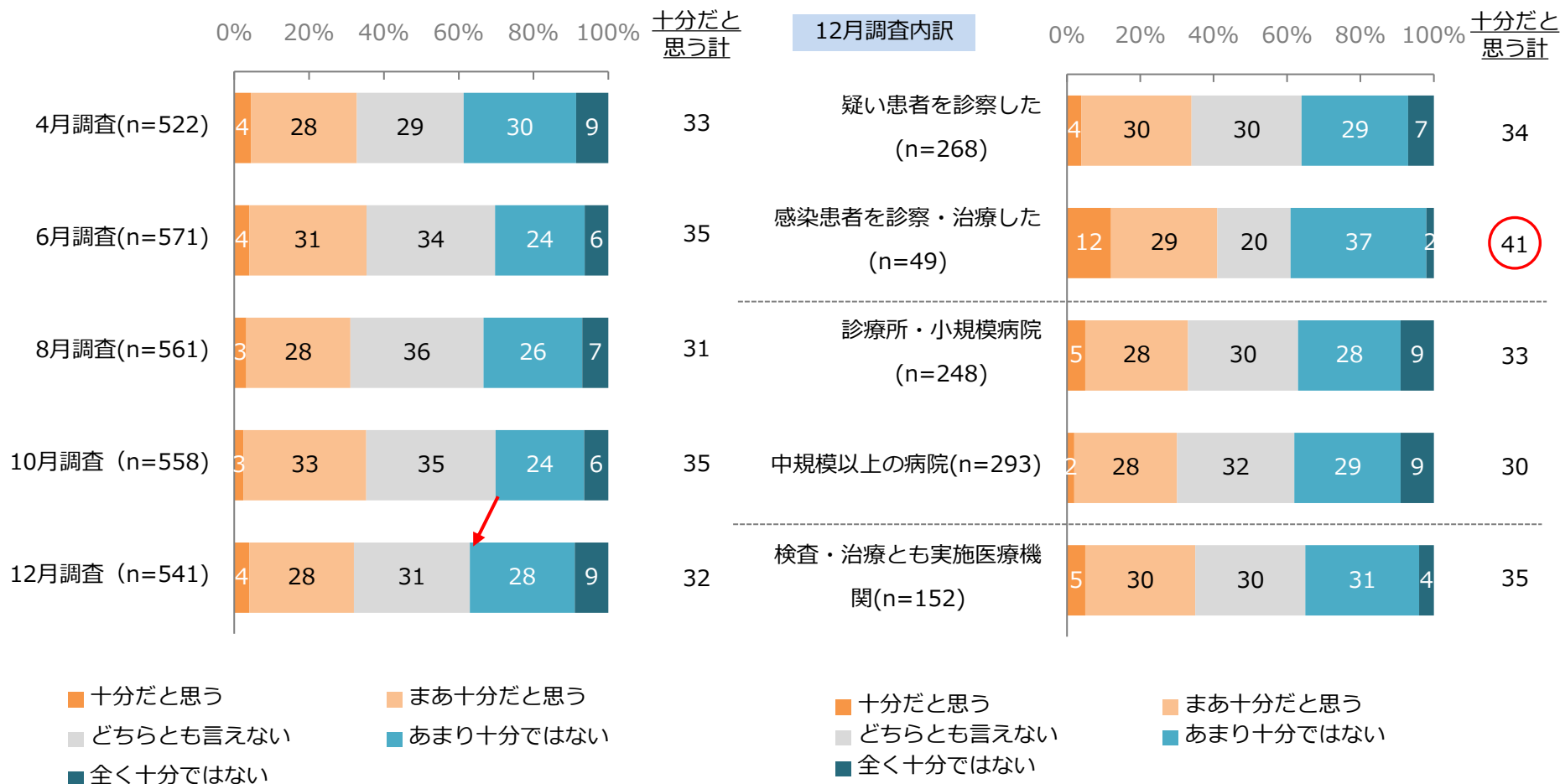
【会議】

- ・コロナ会議に繰り出される (奈良県・内科)
- ・会議、書類作業、訓練、指導 (神奈川県・血液内科)
- ・会議など (福井県・消化器科内科 (胃腸内科))
- ・対策会議での方針の検討 (兵庫県・整形外科)

【説明】

- ・院内の感染状況の説明 (大阪府・精神科)
- ・終末期ケアにおいて、ご家族の面会制限を説明。それでも面会を希望する場合、ご遺体の引き取りに来院される場合、感染対策を行わなければならない (東京都・血液内科)

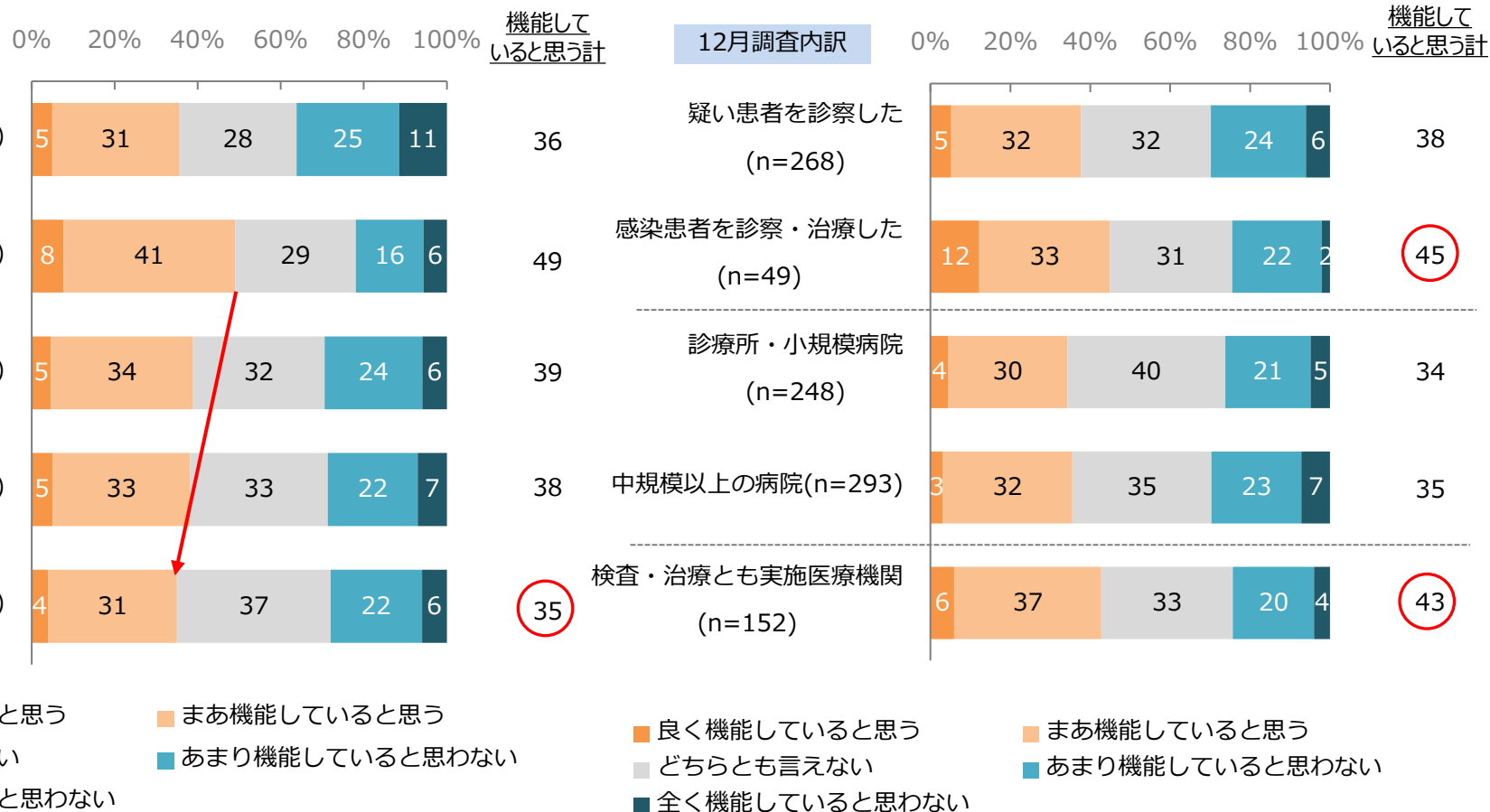
- 新型コロナウイルスに関する情報が十分に入手出来ているかについては、「十分ではない」(「あまり」、「全く」の計)との回答が7ポイント増加。
- 感染患者を診察・治療している医師は、情報に接する機会が多いためか、「十分だと思う」(「十分だと思う」、「まあ十分だと思う」の計)がやや高めで4割超。



Q24. 先生は、新型コロナウイルスが疑われる患者さんを診るうえで、必要な情報は十分に入手出来ていると思われますか
(SA, 3月/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

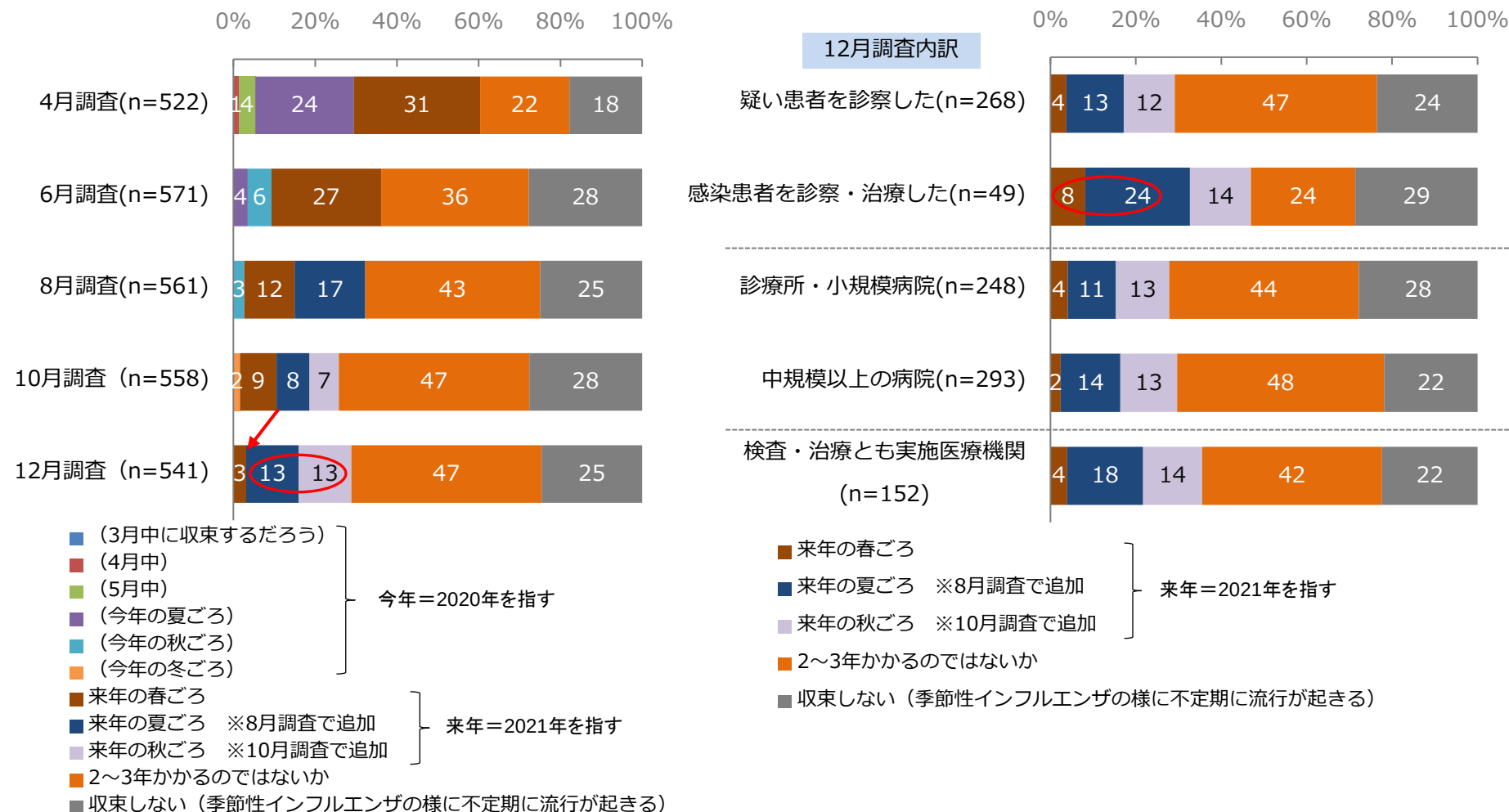
受診相談窓口は機能しているか

- 都道府県設置の新型コロナウイルス受診相談窓口については、「機能していると思う」計の漸減が続き、12月調査では35%。
- 感染患者の診察・治療をしている医師や、検査・治療を実施している医療機関では「機能していると思う」の割合が多めで4割台。



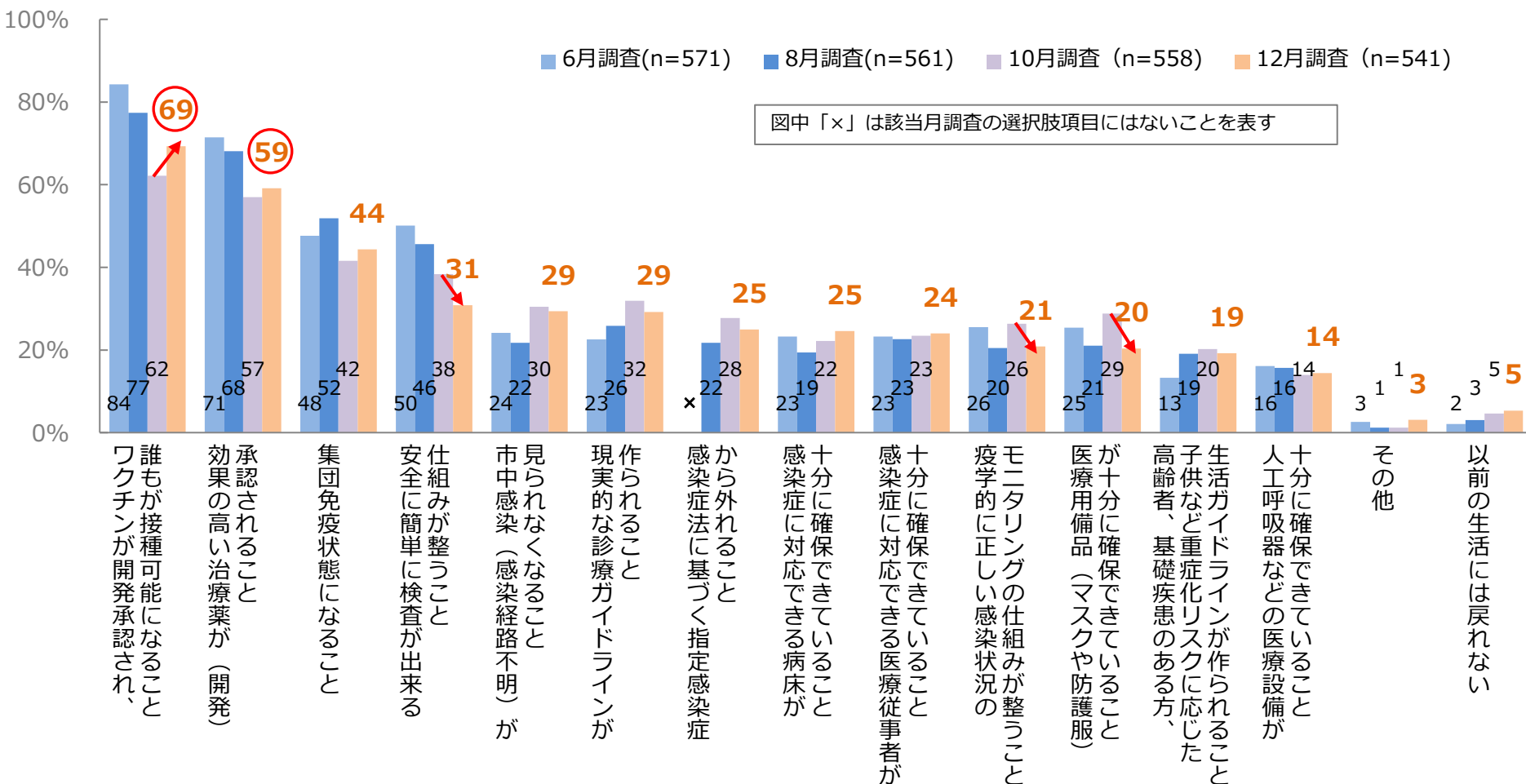
Q25. 先生がお勤めの地域では、保健所や帰国者・接触者相談センターなどの都道府県が設置する「新型コロナウイルス受診相談窓口」が正しく機能しているとお考えですか (SA, -/4月/5月/6月/8月/10月/12月調査)

- 収束時期については、「2～3年かかる」との回答が半数近くを占める状況は変わらず。来年(2021年)「春ごろ」との回答が3%に減少し、代わりに「夏～秋ごろ」との回答がそれぞれ1割超と、さらに長期化するとの見通しが増えた。
- 実際に感染患者の診察・治療にあたっている医師では、「春ごろ」または「夏ごろ」との回答がやや多めで、両者を合わせて3割を超えた。



感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと

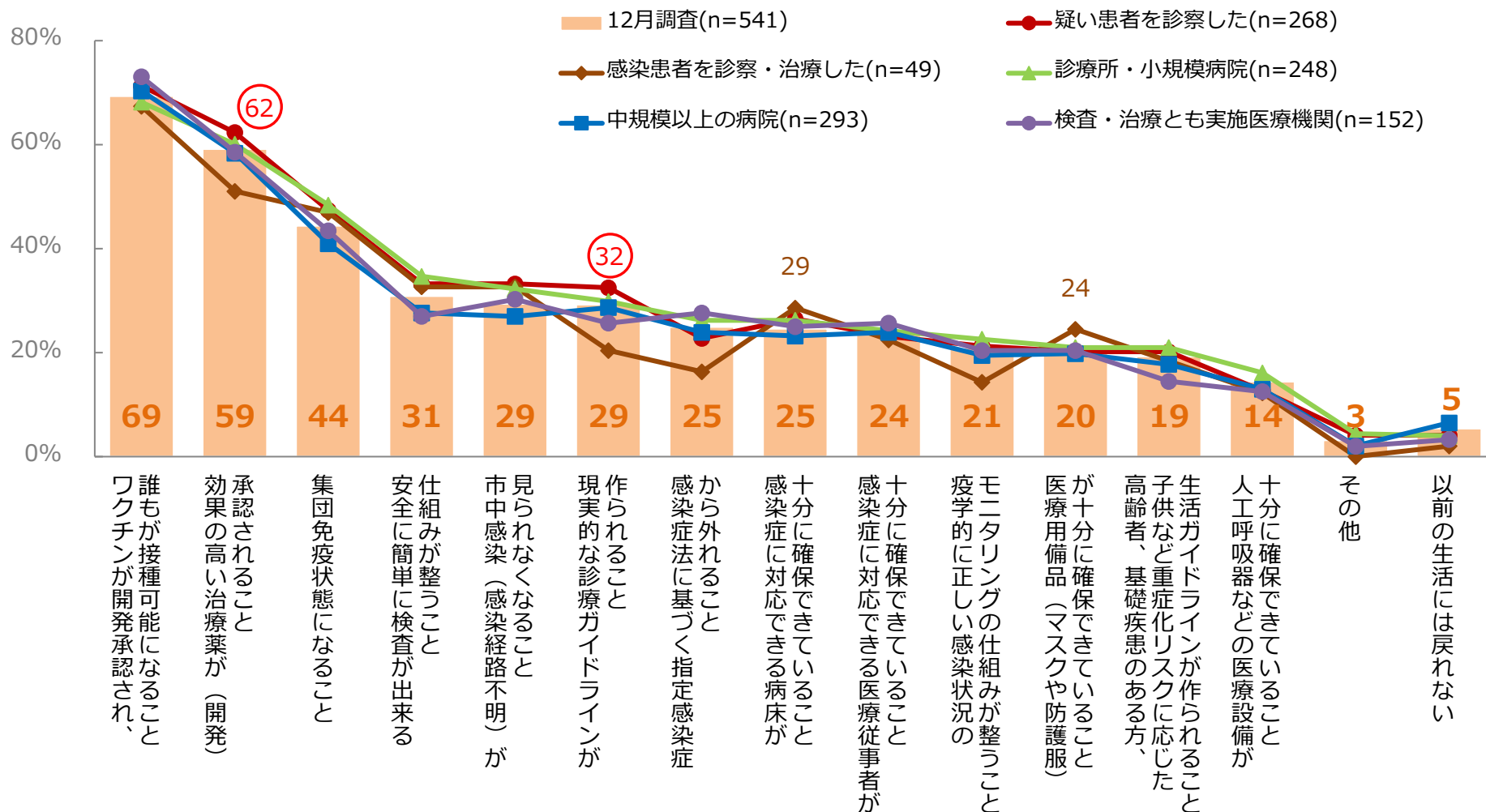
- 感染拡大以前の生活に戻るために必要なことについての回答傾向はこれまでとほぼ同様。「ワクチン」が約7割と最も高く、次いで「治療薬」約6割であった。
- 前回調査と比較すると、海外では承認され、接種が始まっている「ワクチン」は7ポイント増加。一方、充足しつつある「検査ができる仕組み」、「モニタリング」、「医療用備品の確保」が5～9ポイント減少している。



Q27. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください（MA, -/-/5月/6月/8月/10月/12月調査）

感染拡大以前の生活に戻るために必要なこと

- 12月調査内訳で見ると、感染患者を診察・治療した医師では「感染症に対応できる病床」及び「医療用備品（マスクや防護服）」の十分な確保という、診察・治療の現場に即した項目が若干高め。
- 疑い患者を診察した医師は、全体的に選択率がやや高めだが、中でも「効果の高い治療薬が承認される」が6割超、「現実的な診療ガイドラインが作られる」が32%と、高めの選択率。



Q27. 感染拡大以前の生活に戻るために、先生が考える条件として、先生が必要と思われるものをすべてお選びください（MA, 一／一／5月/6月/8月/10月/12月調査）

- 感染症の流行によって、医師としての考えや立場の変化があったかをきいた。「責任の重さを実感」「覚悟ができた」との声がある一方、「仕方がない」などの諦念、医師としての無力感、疲労感が募っているばかりでなく、「早くリタイヤしたい」との本音のコメントが複数みられる。「病院の倒産もありえる」「解雇されるか不安」といった経営、雇用への不安もあがる。「政府があてにならない」との行政への不信感、「メディアのいい加減さを再認識」とメディアへの不信感がみられる。

新型コロナウイルス感染症流行によって、医師としての考えや立場の変化 抜粋(医師都道府県・主診療科目)

【医療をしっかりやるだけ】

- ・医療がしっかりしないと社会生活すべてに多大な影響が出る。責任の重さを実感している（千葉県・内科）
- ・覚悟が出来た（新潟県・内科）
- ・地球上、どこにも逃げ場はない 毎日を淡々と自己の使命に従って生きるだけと考えている（千葉県・脳神経外科）

【仕方がない・諦念】

- ・人の流れを止めることはできないので感染が広がるのもやむを得ない（岐阜県・循環器内科）
- ・事態は数世紀前のペスト流行と変わらない状態であることにあきらめがある（京都府・外科）
- ・先が見えない中、できることをしていくしかない（大阪府・呼吸器内科）

【やめたい】

- ・早くリタイヤしたい（和歌山県・内科）（茨城県・精神科）（福岡県・内科）（北海道・神経内科）他
- ・十分な見通しが立てばやめようと思った。好きなことをやる時間がほしい。（岐阜県・循環器内科）
- ・今の病院を辞めようと思っている（愛知県・眼科）
- ・出来れば早く勤務医を辞めたいと思いが強くなった（滋賀県・糖尿病内科（代謝内科））
- ・退職時期（千葉県・精神科）

【疲労感・無力感】

- ・疲労感がある。（北海道・内科）
- ・つらい しんどい（兵庫県・外科）
- ・精神的な疲労が増した（兵庫県・小児科）
- ・疲労、ストレス、睡眠障害などで、うつ状態になった（山梨県・内科）
- ・無力感（山口県・産婦人科）他多数
- ・開業医としての限界（静岡県・呼吸器内科）

【経営に関すること】

- ・病院の倒産がありえる（愛知県・精神科）
- ・自身の医院が生き残ることを考えてしまう（北海道・その他）
- ・来院頻度が減ることによる弊害はばちばちでできている（京都府・産婦人科）
- ・患者数の減少（北海道・眼科）

【解雇】

- ・非常勤先で解雇されないか心配（愛知県・精神科）
- ・非常勤勤務先で解雇されました。（静岡県・精神科）

【行政への不信感】

- ・政府があてにならないことがわかりました。（大阪府・精神科）（岡山県・小児科）（鹿児島県・眼科）（愛知県・外科）（大阪府・皮膚科）他多数
- ・医療事情が悪化してきているのに、あまり関心が無い政権政党呆れるばかり（茨城県・循環器内科）
- ・誰が考えてもGo to は愚策であり、税金を使って患者拡大をすすめるなど言語同断、しかも間違っているという意見に対して一切耳をかさない（滋賀県・小児科）

【マスコミ・報道への不信感】

- ・メディアのいい加減さを再認識（埼玉県・小児科）（大阪府・皮膚科）（島根県・美容外科）他多数
- ・報道を鵜呑みにすると常に言っている（和歌山県・内科）
- ・マスコミや政治家が正しい情報や、医療機関の情報を流さないために、現場での患者への訂正が困難（埼玉県・外科）
- ・マスコミの欺瞞により頭のおかしくなった人の洗脳を解くこと。報道で陽性者が増え続けていることを伝えているが視聴者を煽っているような気がする（東京都・泌尿器科）

【感染症不安・危機】

- ・感染症の危険性が認識された（京都府・血液内科）
- ・感染が不安（大阪府・耳鼻いんこう科）

【治療の見直し】

- ・無駄な治療や投薬をやめるべき。高額医療を見直す（千葉県・心臓血管外科（循環器外科））
- ・高齢者の進行がんや免疫疾患の治療ゴールが変わったため、新たなアプローチが必要（東京都・血液内科）

【過剰反応】

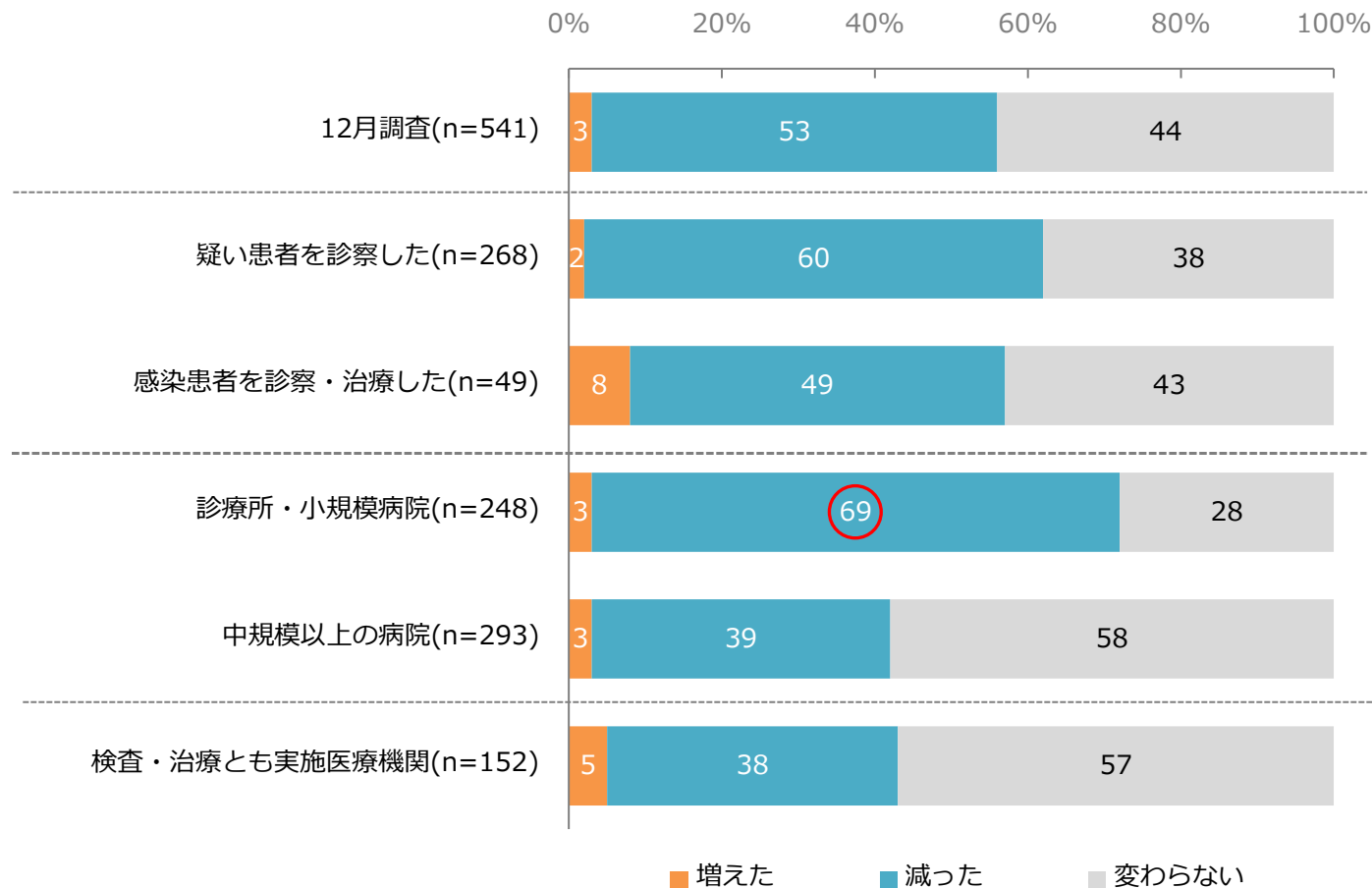
- ・インフルエンザでも毎年かなりの死者が出ているので、過度な偏見 差別はやめるべきである点、経済苦による自殺者の数の事も考えるべきである点、過度な怯えはよくない点、冷静に考えるべき点、だけど、一部の医療従事者の負担が大きすぎる点（大阪府・泌尿器科）
- ・死亡率低いのに騒ぎすぎ 手術遅れて死んだ患者もいる（長野県・乳腺外科）
- ・インフルエンザと同じ扱いでもよいかもしれない（静岡県・麻酔科）
- ・過剰反応だと思う（北海道・耳鼻いんこう科）

【その他】

- ・第一線で診療にあたって下さっているスタッフの皆様には心より御礼申し上げます（宮崎県・消化器科内科（胃腸内科））
- ・通常通りの医療を行えるのが普通ではない（東京都・糖尿病内科（代謝内科））
- ・医療崩壊が近い（福岡県・麻酔科）

Q28. 新型コロナウイルスの流行は、医療の世界において稀に見る大きな出来事となりました。未だ、収束が見えない状況ですが、先生はこの感染症の流行によって、医師としての考えやお立場に何か変化が生じましたでしょうか。具体的にお答えください。（OA, 一/一/一/一/一/一/12月調査のみ）

- 新型コロナウイルス流行前後の収入面の変化は、過半数が「減った」と回答。
- 診療所・小規模病院では「減った」が約7割を占め、勤務医が大多数である中規模以上の病院や、新型コロナウイルスの検査・治療ともに実施している医療機関でも4割程度が「減った」と回答している。

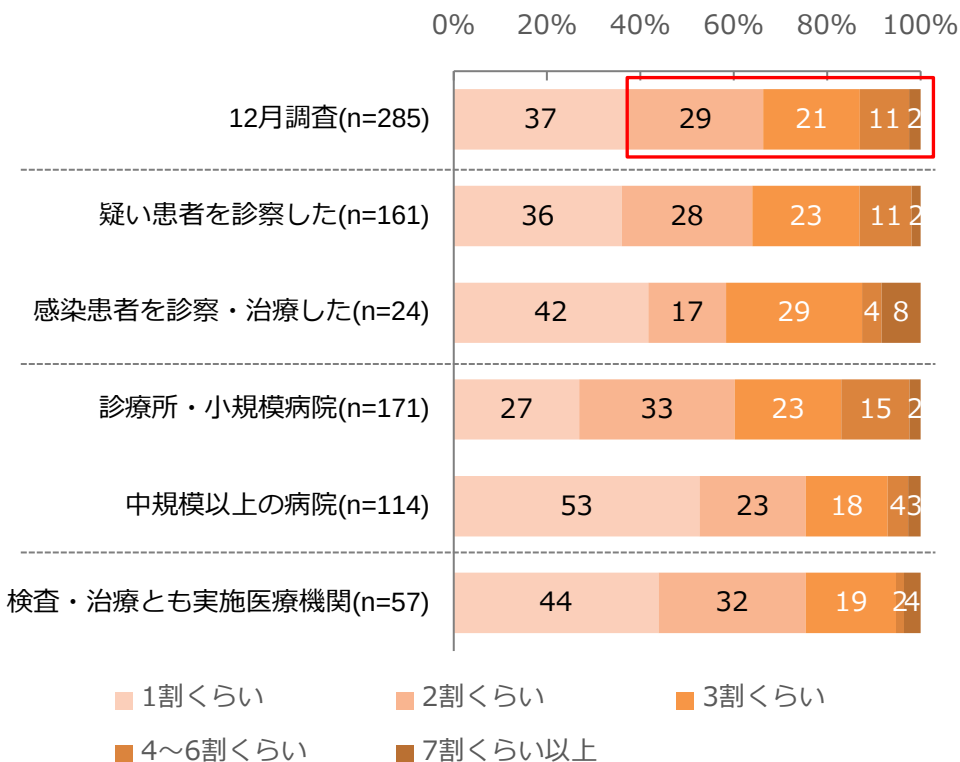


Q29. 新型コロナウイルスの流行は、経済に大きな影響を与えていると言われています。先生は、新型コロナウイルスの流行以前と現在を比べて、収入面での変化はありましたか。(SA, -/-/-/-/-/12月調査)

- 収入が「減った」または「増えた」との回答者に、その割合についても尋ねた。
- 減った割合では、「2割くらい」以上減ったが3分の2近くを占めた。
- 「2割くらい」以上減った割合は、検査・治療とも実施医療機関で5割超、中規模以上の病院で半数近く、診療所・小規模病院では7割超に上る高い選択率。診療所の厳しい経営状況がうかがえる。
- 増えた割合はベースが小さいため参考値に留まるが、増えたと回答したうちの3分の2が、「1割くらい」の増加と回答。

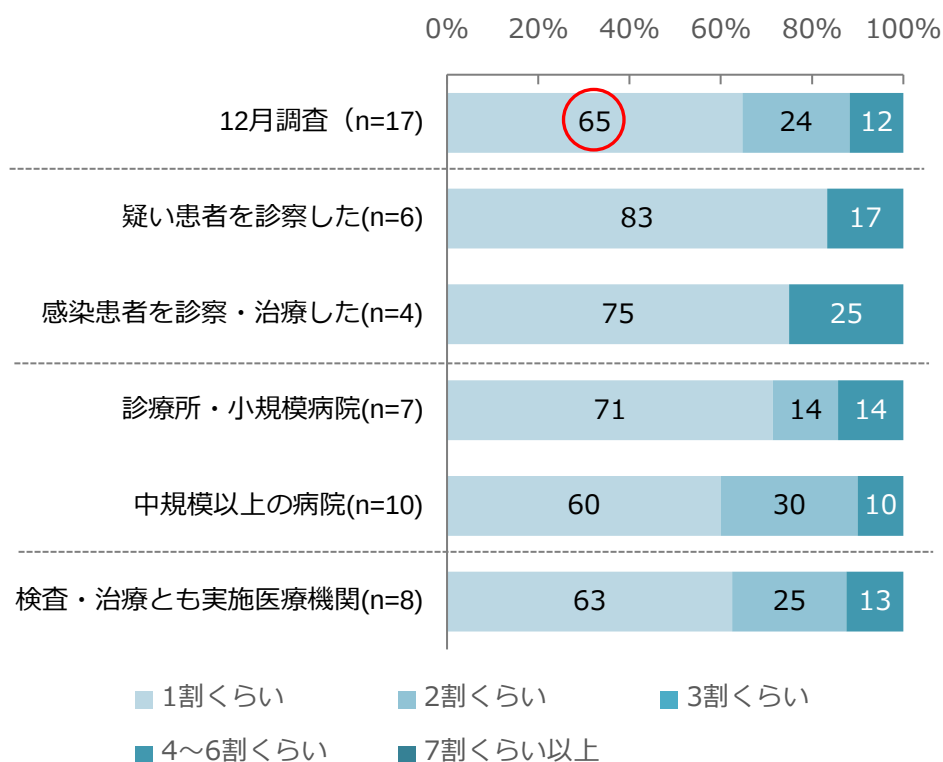
減った割合

Base:「前問で収入が減った」と回答した



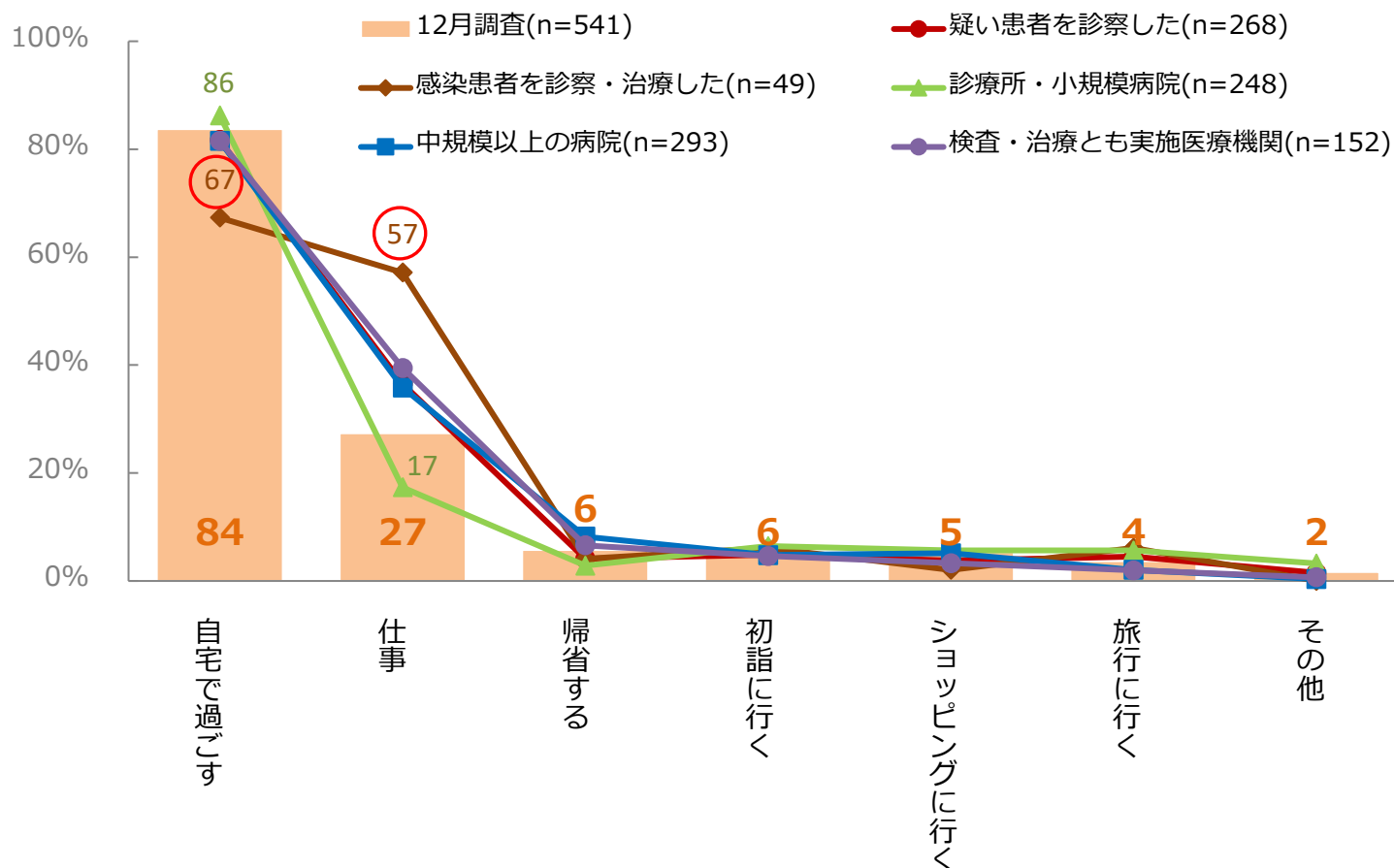
増えた割合

Base:「前問で収入が増えた」と回答した



Q30. (前問で「収入が増えた」とお答え頂いた方にお聞きします。) 実際に増えた割合をお答えください。(SA, -/-/-/-/-/12月調査)
 Q31. (前問で「収入が減った」とお答え頂いた方にお聞きします。) 実際に減った割合をお答えください。(SA, -/-/-/-/-/12月調査)

- お正月の予定について複数回答で尋ねた。8割超が「自宅で過ごす」と回答していたが、感染患者を診察・治療した医師では「仕事」もする予定との回答が6割近くに達する。



Q32. お正月はどの様にお過ごしのお予定です。あてはまるものをすべてお選びください。(MA, 12月調査)